

UD

【NRC自主調査レポート】

ユニバーサルデザイン社会の実現度 定点観測調査

～障害の社会モデルは日本社会にどこまで浸透しているか～
第4回（2020年10月）調査 結果レポート

2020年12月21日



株式会社日本リサーチセンター

<https://www.nrc.co.jp/>

I. ユニバーサルデザイン社会の実現度 定点観測調査について	3
II. 調査実施概要	6
III. 調査票の設計	7
IV. 調査結果 データ紹介編	
1. 障害理解の実態	
1) 社会のあり方に対する考え	12
① 共生社会推進に対する態度	12
② ユニバーサルデザインのまちづくり推進に対する態度	13
2) 障害・障害者に対する意識	14
① ステレオタイプ	14
② 心のバリアフリー（援助行動・交流意思）	16
③ 心のバリアフリー（無関心）	18
3) 障害の捉え方	19
① 障害の医学モデルへの賛同状況	19
② 障害の社会モデルへの賛同状況	20
4) 障害をめぐる意識・捉え方 時系列比較	21
2. 社会的障壁に接した場面での行動イメージ	22
3. 共生社会の実現度合評価	24
■ 結果サマリー	26
■ 調査票（単純集計結果付）	
2020年調査票	31
2019年調査票	32
2018年調査票	33
2017年調査票	34

🕒 ユニバーサルデザインとは

オリンピック・パラリンピック東京大会のレガシー（後世に残され、未来に引き継がれる財産）として、共生社会の実現、ユニバーサルデザイン社会の実現、心のバリアフリーの推進を目指し、いま、日本が動いています。

障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいようあらかじめ都市や生活環境をデザインするという考え方、それが**ユニバーサルデザイン**です。

階段しかない建物では、車椅子や杖が必要な人が生活するのは困難ですが、最初からこのような人々も利用しやすい設計がなされていれば問題はありません。ユニバーサルデザインが広まれば、これまで障害のある人々が直面してきた社会の中にあるさまざまな障壁も取り除かれていきます。

障害の社会モデルという考え方があります。これは、「**障害は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である**」として、「障害の原因は不利な状況をつくる社会の側にある」ことを説明するものです。障害の社会モデルは、2006年国際連合が採択した障害者権利条約に示され、「障害はもっぱら個人の機能的特質に起因する個人的な問題」としてきたそれまでの障害認識を大きく転換させました。

日本でも2016年施行の障害者差別解消法をはじめとして障害の社会モデルに基づく諸施策がスタートし、ユニバーサルデザインによるまちづくりを進めていくため、2017年にはユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議によって「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が策定されました。

🕒 調査実施の背景と目的

日本リサーチセンターは、内閣官房「平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査（ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査）」に調査事務局として参画し、ユニバーサルデザインを進めていくための試行プロジェクトの効果や改善点を調査・分析しました。そこでは、2016年当時の日本社会では障害の社会モデルの理解・実践はまだ十分なレベルに達しておらず、それを社会に浸透させていくことが喫緊の課題であることがわかりました。

オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、全国各地で心のバリアフリーを広める取り組み、誰もが安全で快適に移動できるユニバーサルデザインのまちづくりが進みつつあります。そこで弊社では、“調査”というツールを利用して、人々の意識や社会の動きをキャッチし、それを記録として残していきたいと考え、2017年から大会開催翌年までにわたる定点観測調査を企画しました。

2020年は新型コロナウイルス感染症拡大により、オリンピック・パラリンピック東京大会は開催が翌年に延期となりました。そのため、定点観測調査も、大会開催1年後までに延長し実施する予定です。

ユニバーサルデザイン関係閣僚会議（事務局：内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部）

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/udsuisin/index.html

ユニバーサルデザイン2020行動計画

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/ud2020kkaigi/pdf/2020_keikaku.pdf

平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査（ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査）調査報告書

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/udsuisin/pdf/201703_hokoku.pdf

🕒 定点観測の計画

「障害の社会モデルの考え方は日本社会にどこまで浸透していくのか」、歴史的なイベントである「オリンピック・パラリンピック東京大会はユニバーサルデザイン社会の実現というレガシーを残すことができるのか」ということを知るため、2017年から2022年までの6年間、全国の一般市民（15～79歳）を対象とした全7回の定点観測調査を実施します。

	調査実施期間	結果公表
第1回調査	2017年11月2日～11月14日	(公開中) ユニバーサルデザイン理解・浸透度 定点観測調査 ～「障害の社会モデル」は日本社会にどこまで浸透しているか～ 第1回調査（2017年11月調査結果） https://www.nrc.co.jp/report/181016.html
第2回調査	2018年8月31日～9月12日	(第1回・第2回時系列レポート 公開中) ユニバーサルデザイン社会の実現度 定点観測調査 ～障害の社会モデルは日本社会にどこまで浸透しているか～ 第2回調査（2018年9月調査結果） https://www.nrc.co.jp/report/190627.html
第3回調査	2019年8月30日～9月11日	(公開中:第1回～第3回時系列レポート 公開中) ユニバーサルデザイン理解・浸透度 定点観測調査 ～「障害の社会モデル」は日本社会にどこまで浸透しているか～ 第3回調査（2019年9月調査結果） https://www.nrc.co.jp/report/191226.html
第4回調査	2020年10月2日～10月14日	(公開中:第1回～第4回時系列レポート) ※本レポート
第5回調査	2021年5月頃実施予定 ※東京大会開催直前	2021年7月頃公開予定
東京オリンピック競技大会開催（予定） 2021年7月23日（金）～ 8月8日（日） 東京パラリンピック競技大会開催（予定） 2021年8月24日（火）～ 9月5日（日）		
第6回調査	2021年10月頃実施予定 ※東京大会開催直後	2021年12月頃公開予定
第7回調査	2022年10月頃実施予定（東京大会延期により追加予定）	2022年12月頃公開予定

▲ 調査結果については、弊社ホームページにて公表します。

▲ 共生社会に向けた研究にご利用の場合は、無料で調査データを提供いたします（調査結果を引用等でお使いいただく場合には、弊社名の記載をお願いします）。

II. 調査実施概要

調査方法

調査員による個別訪問留置調査
日本リサーチセンターオムニバスサーベイ（NOS）を利用

調査対象

全国の15～79歳の男女個人 1,200人

抽出方法

層化3段抽出
【地点抽出】 全国200地点を、大字・町丁目を抽出単位として、9地域ブロック×4都市規模で層化無作為抽出
【世帯抽出】 全国住宅地図データベースを抽出フレームとして、各抽出地点で訪問世帯を等間隔抽出
【個人抽出】 各層の母集団の性別・年代構成比に合わせて各地点で依頼回収する性別・年代を割り当てる(1地点6人ずつ)
抽出世帯において、地点割当に合致する個人に依頼・回収する
母集団は2015年国勢調査人口を用いた

調査実施主体

株式会社日本リサーチセンター(自主調査)

日本リサーチセンター オムニバス サーベイ（NOS）について

弊社では、全国15～79歳男女1,200人を対象に、訪問留置オムニバス調査（NOS）を定期的実施しています。
弊社訪問調査員が、層化無作為抽出した全国200地点で、住宅地図から無作為に抽出したお宅を訪問し、地域・都市規模と性年代が日本の人口構成に合致するように対象者に依頼する調査です。そのため、全体結果は、日本全国15～79歳男女の実態や意識をバランスよく反映したものとしてご覧になれます。

NOSの特長

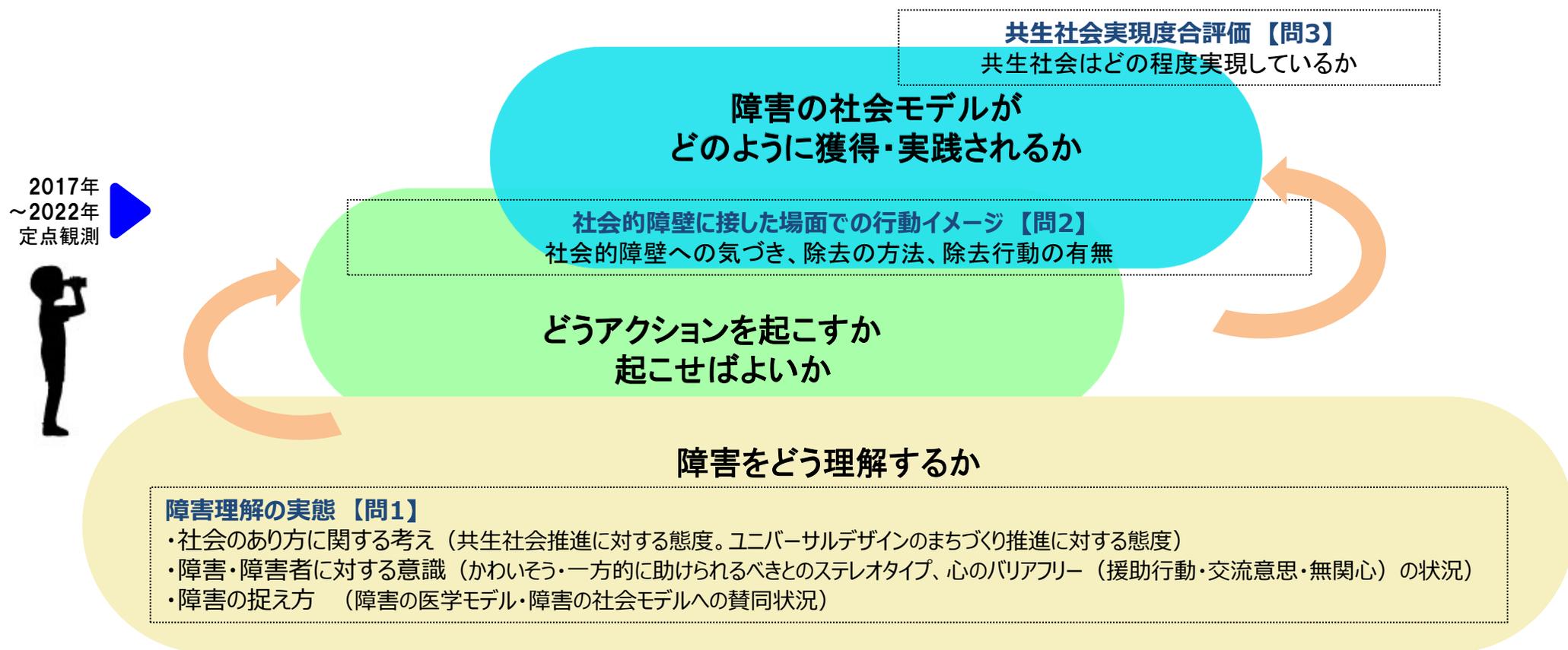
インターネットアンケートパネルを使って簡単に調査ができる時代になりましたが、日本リサーチセンターでは、50年近くにわたって、調査員を使った訪問留置、パネルモニターではない毎回抽出方式で、日本リサーチセンターオムニバスサーベイ「NOS」を継続実施し、代表性のある信頼の高いデータを提供してきました。
インターネット調査では、回収が難しい70代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのに有用な手法と言えます。

Ⅲ. 調査票の設計

調査票の設計にあたっては、内閣官房「平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査（ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査）」における試行プロジェクト審査委員会委員長の、慶應義塾大学経済学部 中野秦志教授にご助言いただきました。また、同調査でご協力をいただいた障害者団体にもご意見をお伺いし、一般財団法人全日本ろうあ連盟、全国手をつなぐ育成会連合会からいただいたご意見も踏まえて調査票を完成させました。ご協力に心より感謝申し上げます。

🕒ユニバーサルデザイン社会の実現度を測定するための3フェーズ

当調査では、ユニバーサルデザインの発想や障害の社会モデルが、人々にどのように理解され、社会に浸透しているのかを測定していきます。測定に際して、「障害の理解」、「アクション」、「障害の社会モデルの獲得・実践」という3つのフェーズを調査票に落とし込むことを念頭に置いて、設問を設計しました。



- ▲ 本調査において、障害の社会モデルの定義は、内閣官房「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に基づきました。
- ▲ 本調査及びレポートにおいて、「障害」の表記については、2010年内閣府障がい者制度改革推進会議の「「障害」の表記に関する検討結果について」に基づき、「障害」を用いています。

Ⅲ. 調査票の設計

障害をどう理解するか

問1は、社会のあり方に関する考えや、障害者に対する意識、障害の捉え方に関するa～iの9つの意見・認識に対する適合度合いを7段階で尋ね、障害理解の実態を測定する時系列設問です。

「障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である」とする従来の障害観である**障害の医学モデル**、そして「障害のあることはかわいそうであり、一方的に助けられるべき存在」といった**ステレオタイプ**が現在どの程度残留しているか、「障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である」とする**障害の社会モデル**の考え方がどの程度浸透しているかを把握します。

障害理解の実態【問1】 時系列

【すべての方に】

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思うものに○をつけてください。

	(それぞれ○は1つずつ)						
	非常に そう 思う	そう 思う	やや そう 思う	ない どころ でもない	あ まり あ り ま た あ り ま た あ り ま た	思 わ な い	全 く 思 わ な い
a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	1	2	3	4	5	6	7
b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	1	2	3	4	5	6	7
c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	1	2	3	4	5	6	7
d) 障害のあることは、かわいそうだと思う	1	2	3	4	5	6	7
e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	1	2	3	4	5	6	7
f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	1	2	3	4	5	6	7
g) 障害の問題は、自分にはかかわりがない	1	2	3	4	5	6	7
h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である	1	2	3	4	5	6	7
i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	1	2	3	4	5	6	7

探索領域	探索内容	調査項目	定義・出典
社会のあり方に関する考え	共生社会推進に対する態度	a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	(内閣官房「ユニバーサルデザイン2020行動計画」より)
	ユニバーサルデザインのまちづくり推進に対する態度	b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	
障害・障害者に対する意識	ステレオタイプ「一方的に助けられるべき存在」	c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	内閣官房「ユニバーサルデザイン2020行動計画」でのステレオタイプ意識例示より
	ステレオタイプ「かわいそう」	d) 障害のあることはかわいそうだと思う *2017年では「障害のある人は、かわいそうだと思う」としていましたが、2018年に変更しました。	
	心のバリアフリー（援助行動）	e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	『心のバリアフリー』に向けた汎用性のある研修プログラムの基本プログラム評価ツール『研修における評価アンケート雛形』②より
	心のバリアフリー（交流意思）	f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	
	心のバリアフリー（無関心）	g) 障害の問題は、自分にはかかわりがない	
障害の捉え方	障害の医学モデルへの賛同状況	h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である	文部科学省 障がい者制度改革推進会議資料での定義より
	障害の社会モデルへの賛同状況	i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	内閣官房「ユニバーサルデザイン2020行動計画」での定義より

Ⅲ. 調査票の設計

どうアクションを起こすか・起こせばよいか

社会的障壁に接した場面での行動イメージ【問2】 時系列

問2は、具体的な社会的障壁のあるシチュエーション例を示し、このような状況に遭遇したときにどう考えるか、どのような行動を起こすと思うかを尋ねる時系列設問です。

項目アでは無関心・無関与の状況を把握し、項目イ・ウ・エでは分離発想について把握しようとしたものです*。

項目オ・キ・クはソフト面での社会的障壁解消、項目カはハード面での社会的障壁解消に関する方策例を示しました。

項目コは、社会的障壁に気づいた際に社会に対する自発行動を起こすかどうかを捉えようとして設計しました。

項目ケは、この社会的障壁解消・改善の店舗側の責任についての考えを尋ねるもので、第2回調査に新設しました。

*第1回調査では、「車いすや乳幼児連れの人専用の買物エリアや通路、時間帯などを設けるのがよい」という選択肢を用いましたが、第2回調査では、「一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい」、「一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人たちの買い物時間帯を設けるのがよい」の二つに分けて聴取しました。さらに第3回調査ではこの二つの選択肢を「一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい」と、「一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい」に変更しました。

*第2回調査から「すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当然のことなので、店はこの状況を改善する必要がある」を追加しました。

*第3回調査から複数回答ではなく、各項目ごとの単数回答としました。

障害の社会モデルがどのように獲得・実践されるか

問2 「ショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません」

このようなとき、あなたはどのように考えますか。(それぞれ〇は1つずつ)

	そう思う	そう 思わない
ア) 自分には関係ない・関わりたくない	→ 1	2
イ) 車いすや乳幼児連れの人とは混雑した場所に来ないほうがよい	→ 1	2
ウ) 一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい	→ 1	2
エ) 一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい	→ 1	2
オ) 車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行するのがよい	→ 1	2
カ) 狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい	→ 1	2
キ) 混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい	→ 1	2
ク) 近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい	→ 1	2
ケ) すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当然のことなので、店はこの状況を改善する必要がある	→ 1	2
コ) 店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい	→ 1	2

ア) 自分には関係ない・関わりたくない	イ) 車いすや乳幼児連れの人とは混雑した場所に来ないほうがよい	車いすや乳幼児連れの人専用の買物エリアや通路、時間帯などを設けるのがよい (2017年選択肢3)	ウ) 一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい	エ) 一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい	オ) 車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行するのがよい	ク) 近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい	キ) 混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい	カ) 狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい	ケ) すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当然のことなので、店はこの状況を改善する必要がある	コ) 店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい
無関心	分離による解決			ソフト面による解決		ハード面による解決		改善責任の認識	社会的障壁除去の為に社会への働きかけ	
			自発行動				解決策イメージ			

どうアクションを起こすか・起こせばよいか

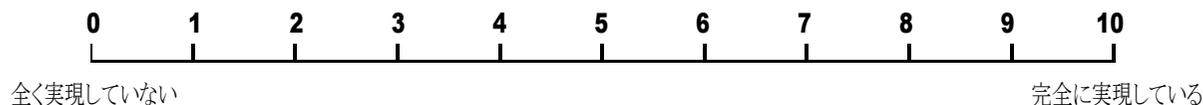
障害の社会モデルがどのように獲得・実践されるか

共生社会実現度合評価【問3】 時系列

問3は、人々が、社会ゴールである共生社会の現在の到達度をどの程度と捉えているかを測定します。

0:全く実現していない から 10:完全に実現している の10点満点（11段階）スケールで定点観測する設問です。

問3 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。 0～10までの11段階でお答えください。（○は1つだけ）



IV. 調査結果 データ紹介編

- ※ 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答総数、又は分類別の回答数を示している。
- ※ 百分比は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。
四捨五入の関係で、合計値が100%とならないことがある。
- ※ 図表中「-」は、回答者が皆無であることを示す。

- ※ 以降の図表中のハッチングは次の基準に基づく。

全体に比べて+10 $^{\circ}$ イト以上

全体に比べて+5~9 $^{\circ}$ イト

全体に比べて-5~9 $^{\circ}$ イト

全体に比べて-10 $^{\circ}$ イト以上

1. 障害理解の実態 1)社会のあり方に対する考え

① 共生社会推進に対する態度

【2020年】 共生社会推進に賛同する人（そう思う計）は、全体で9割を超え（91.1%）高水準。

▲ 女性50代で97.8%と高い。

【時系列変化】

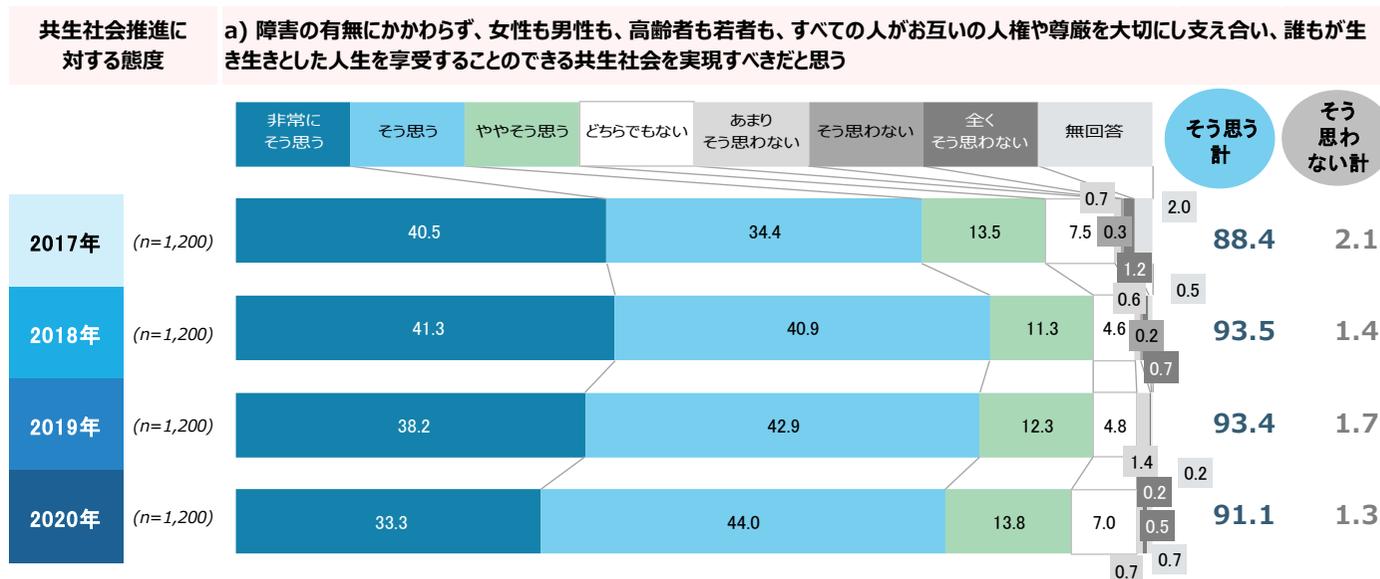
共生社会推進への賛同率（そう思う計）は、2017年（88.4%）から2018年（93.5%）にかけて上昇。

2018年と2019年はほぼ変わらず、93~94%の高水準を維持。

2019年から2020年にかけて有意に減少。

▲ 2019年から2020年の減少傾向は、特に男女15~19才で8~10ポイントと減少幅が大きい。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年-2019年
全体	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	88.4	93.5	93.4	91.1	-2.3
男性小計	(n=596)	(n=592)	(n=592)	(n=592)	84.9	91.9	91.7	89.7	-2.0
15~19才	(n=36)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	83.3	91.9	91.9	83.8	-8.1
20~29才	(n=76)	(n=75)	(n=75)	(n=75)	78.9	92.0	89.3	92.0	2.7
30~39才	(n=97)	(n=95)	(n=95)	(n=95)	82.5	91.6	88.4	87.4	-1.1
40~49才	(n=109)	(n=111)	(n=111)	(n=111)	82.6	91.9	95.5	88.3	-7.2
50~59才	(n=92)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	88.0	87.1	93.5	92.5	-1.1
60~69才	(n=110)	(n=106)	(n=105)	(n=107)	89.1	95.3	89.5	89.7	0.2
70~79才	(n=76)	(n=75)	(n=76)	(n=74)	88.2	93.3	93.4	91.9	-1.5
女性小計	(n=604)	(n=608)	(n=608)	(n=608)	91.9	95.1	95.1	92.4	-2.6
15~19才	(n=35)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	85.7	97.3	97.3	86.5	-10.8
20~29才	(n=73)	(n=73)	(n=73)	(n=73)	97.3	95.9	97.3	93.2	-4.1
30~39才	(n=97)	(n=92)	(n=92)	(n=92)	93.8	96.7	96.7	90.2	-6.5
40~49才	(n=105)	(n=110)	(n=110)	(n=110)	90.5	93.6	97.3	91.8	-5.5
50~59才	(n=91)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	89.0	96.8	96.8	97.8	1.1
60~69才	(n=112)	(n=115)	(n=115)	(n=115)	95.5	93.0	90.4	93.9	3.5
70~79才	(n=91)	(n=88)	(n=88)	(n=88)	87.9	94.3	92.0	89.8	-2.3

1. 障害理解の実態 1)社会のあり方に対する考え

②ユニバーサルデザインのまちづくり推進に対する態度

【2020年】ユニバーサルデザインのまちづくり推進に賛同する人（そう思う計）は、全体で8割半（85.2%）。

▲ 男女50代、女性20代で9割を上回り高い。

【時系列変化】ユニバーサルデザインのまちづくり推進の賛同率（そう思う計）は、2017年（84.8%）から2018年（89.3%）にかけて上昇。2018年と2019年はほぼ変わらず、89%の水準を維持。

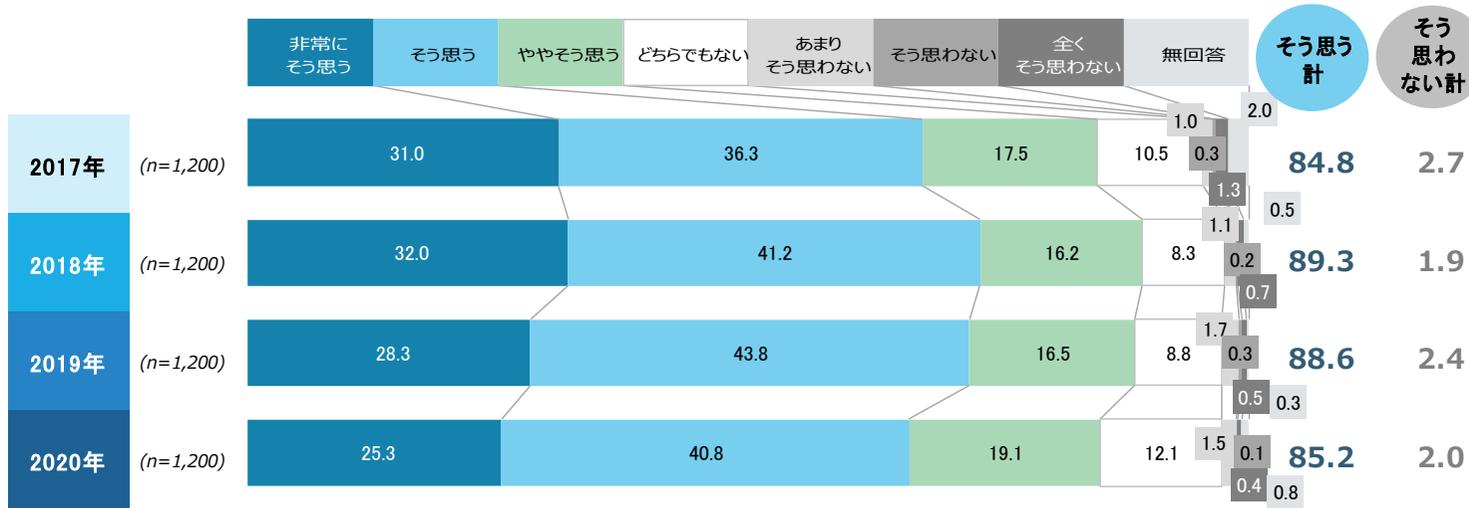
2019年から2020年にかけて減少。

▲ 2019年から2020年の減少傾向は、特に女性15～19才、女性40代、男性70代で10ポイントと下がり幅が大きい。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）

ユニバーサルデザインのまちづくり推進に対する態度

b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う態度



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年- 2019年
全 体	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	84.8	89.3	88.6	85.2	-3.4
男性小計	(n=596)	(n=592)	(n=592)	(n=592)	81.7	87.2	85.8	84.3	-1.5
15～19才	(n=36)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	72.2	91.9	89.2	86.5	-2.7
20～29才	(n=76)	(n=75)	(n=75)	(n=75)	77.6	90.7	78.7	88.0	9.3
30～39才	(n=97)	(n=95)	(n=95)	(n=95)	80.4	84.2	84.2	78.9	-5.3
40～49才	(n=109)	(n=111)	(n=111)	(n=111)	83.5	87.4	91.9	84.7	-7.2
50～59才	(n=92)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	82.6	86.0	84.9	91.4	6.5
60～69才	(n=110)	(n=106)	(n=105)	(n=107)	83.6	89.6	85.7	85.0	-0.7
70～79才	(n=76)	(n=75)	(n=76)	(n=74)	85.5	82.7	85.5	75.7	-9.9
女性小計	(n=604)	(n=608)	(n=608)	(n=608)	87.9	91.4	91.3	86.0	-5.3
15～19才	(n=35)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	85.7	94.6	94.6	83.8	-10.8
20～29才	(n=73)	(n=73)	(n=73)	(n=73)	94.5	97.3	90.4	90.4	0.0
30～39才	(n=97)	(n=92)	(n=92)	(n=92)	88.7	93.5	91.3	85.9	-5.4
40～49才	(n=105)	(n=110)	(n=110)	(n=110)	86.7	88.2	94.5	84.5	-10.0
50～59才	(n=91)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	87.9	95.7	93.5	93.5	0.0
60～69才	(n=112)	(n=115)	(n=115)	(n=115)	90.2	84.3	91.3	85.2	-6.1
70～79才	(n=91)	(n=88)	(n=88)	(n=88)	81.3	92.0	84.1	78.4	-5.7

1. 障害理解の実態 2) 障害・障害者に対する意識

①ステレオタイプ

【2020年】「障害者は一方的に助けられるべき存在」という意識について、そう思う計は36.2%、そう思わない計は31.7%。

▲「障害のある人は一方助けられるべき存在である」というステレオタイプの賛同者（そう思う計）は、男性15～19才で5割半、男女70代で4割半を超え、他層より多い。女性40代では2割で他層より少ない。

【時系列変化】「一方的に助けられるべき存在」について、そう思う計の回答は2017年以降年々下降傾向にあり、2020年と2017年のスコアを比較すると、減少している。

一方、そう思わない計の回答は2018年から2019年にかけて8ポイント上昇したが、2020年は6ポイント減少した。

2019年から2020年の変化でみると、「一方的に助けられるべき存在」への賛同者（そう思う計）は、男性では4ポイント上昇したが、女性では5ポイント減少した。2017年以降でみると、女性60～70代で下降傾向にある。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年-2019年
全体	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	40.5	39.3	36.8	36.2	-0.7
男性小計	(n=596)	(n=592)	(n=592)	(n=592)	40.1	38.0	34.8	38.3	3.5
15～19才	(n=36)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	36.1	43.2	37.8	56.8	18.9
20～29才	(n=76)	(n=75)	(n=75)	(n=75)	39.5	37.3	34.7	37.3	2.7
30～39才	(n=97)	(n=95)	(n=95)	(n=95)	34.0	37.9	29.5	34.7	5.3
40～49才	(n=109)	(n=111)	(n=111)	(n=111)	34.9	36.0	34.2	33.3	-0.9
50～59才	(n=92)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	42.4	29.0	36.6	33.3	-3.2
60～69才	(n=110)	(n=106)	(n=105)	(n=107)	43.6	41.5	33.3	40.2	6.9
70～79才	(n=76)	(n=75)	(n=76)	(n=74)	50.0	45.3	40.8	45.9	5.2
女性小計	(n=604)	(n=608)	(n=608)	(n=608)	40.9	40.6	38.8	34.0	-4.8
15～19才	(n=35)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	45.7	40.5	43.2	40.5	-2.7
20～29才	(n=73)	(n=73)	(n=73)	(n=73)	42.5	50.7	38.4	35.6	-2.7
30～39才	(n=97)	(n=92)	(n=92)	(n=92)	30.9	34.8	30.4	32.6	2.2
40～49才	(n=105)	(n=110)	(n=110)	(n=110)	35.2	35.5	33.6	21.8	-11.8
50～59才	(n=91)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	37.4	30.1	39.8	35.5	-4.3
60～69才	(n=112)	(n=115)	(n=115)	(n=115)	47.3	40.9	38.3	33.0	-5.2
70～79才	(n=91)	(n=88)	(n=88)	(n=88)	50.5	55.7	52.3	46.6	-5.7

1. 障害理解の実態 2) 障害・障害者に対する意識

①ステレオタイプ

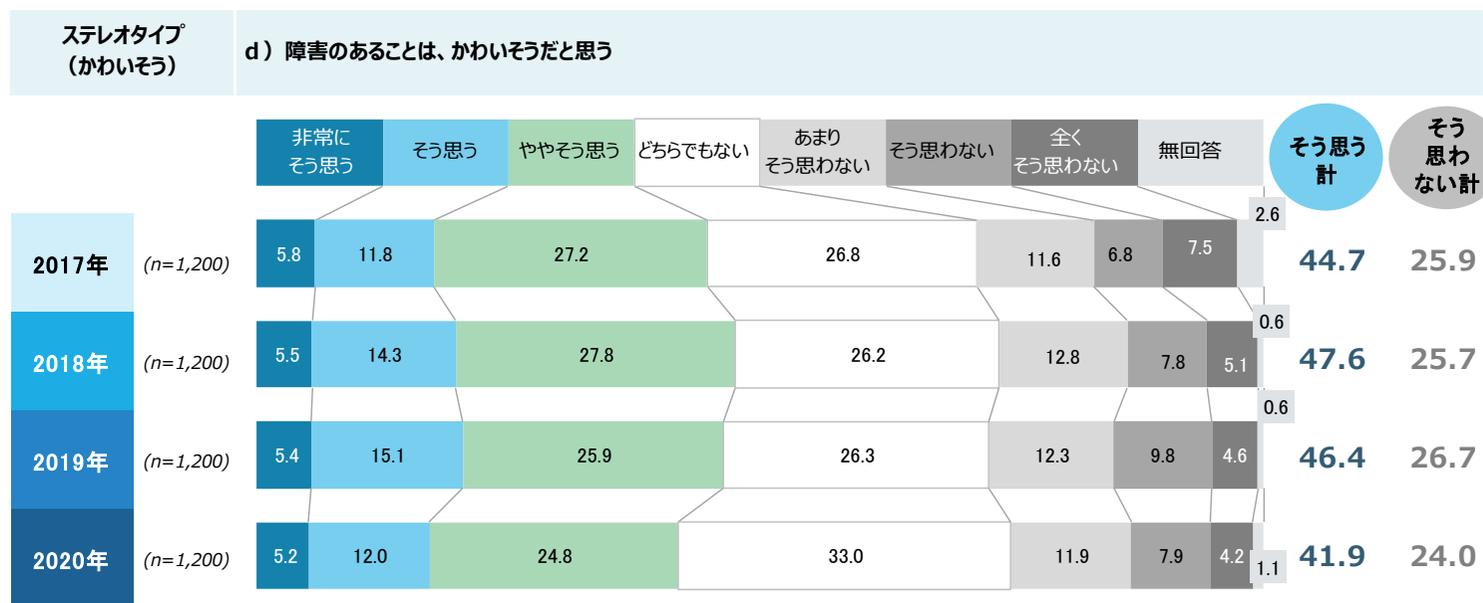
【2020年】「障害のあることはかわいそう」という意識について、そう思う計は41.9%、そう思わない計は24.0%。

- ▲ 「障害のあることはかわいそうだと思う」というステレオタイプへの賛同者（そう思う計）は、男性60～70代で半数を超え、他層より多い。女性15～19才、女性20代では2割半前後で他層より低い。
- ▲ 「障害者は一方的に助けられるべき存在」（前頁掲載）というステレオタイプは、そう思う計とそう思わない計がともに3割台であるのに対し、「障害のあることはかわいそうだと思う」とのステレオタイプは、そう思わない計に比べてそう思う計が多く、両者に関きが見られる。

【時系列変化】「かわいそう」という意識は2017年～2019年は大きく変化しなかったが、2019年から2020年にかけて減少した。ただし、2017年と2020年を比較すると有意な減少ではない。

- ▲ 2019年から2020年の変化でみると、「障害のあることはかわいそうだと思う」への賛同者（そう思う計）は、男性ではあまり変わらなかったものの、女性では8ポイント減少した。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年-2019年
全体	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	44.7	47.6	46.4	41.9	-4.5
男性小計	(n=596)	(n=592)	(n=592)	(n=592)	48.5	47.0	46.3	45.8	-0.5
15～19才	(n=36)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	38.9	51.4	43.2	48.6	5.4
20～29才	(n=76)	(n=75)	(n=75)	(n=75)	42.1	42.7	42.7	45.3	2.7
30～39才	(n=97)	(n=95)	(n=95)	(n=95)	33.0	34.7	41.1	35.8	-5.3
40～49才	(n=109)	(n=111)	(n=111)	(n=111)	50.5	43.2	48.6	40.5	-8.1
50～59才	(n=92)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	52.2	43.0	44.1	47.3	3.2
60～69才	(n=110)	(n=106)	(n=105)	(n=107)	52.7	59.4	45.7	50.5	4.8
70～79才	(n=76)	(n=75)	(n=76)	(n=74)	65.8	57.3	57.9	56.8	-1.1
女性小計	(n=604)	(n=608)	(n=608)	(n=608)	40.9	48.2	46.5	38.2	-8.4
15～19才	(n=35)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	37.1	51.4	35.1	24.3	-10.8
20～29才	(n=73)	(n=73)	(n=73)	(n=73)	41.1	41.1	45.2	27.4	-17.8
30～39才	(n=97)	(n=92)	(n=92)	(n=92)	35.1	51.1	40.2	40.2	0.0
40～49才	(n=105)	(n=110)	(n=110)	(n=110)	40.0	42.7	39.1	32.7	-6.4
50～59才	(n=91)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	38.5	46.2	47.3	40.9	-6.5
60～69才	(n=112)	(n=115)	(n=115)	(n=115)	43.8	53.0	53.9	45.2	-8.7
70～79才	(n=91)	(n=88)	(n=88)	(n=88)	48.4	52.3	58.0	45.5	-12.5

*2017年に用いた「障害のある人は、かわいそうだと思う」を、2018年に「障害のあることは、かわいそうだと思う」に変更。

1. 障害理解の実態 2)障害・障害者に対する意識

②心のバリアフリー（援助行動・交流意思）

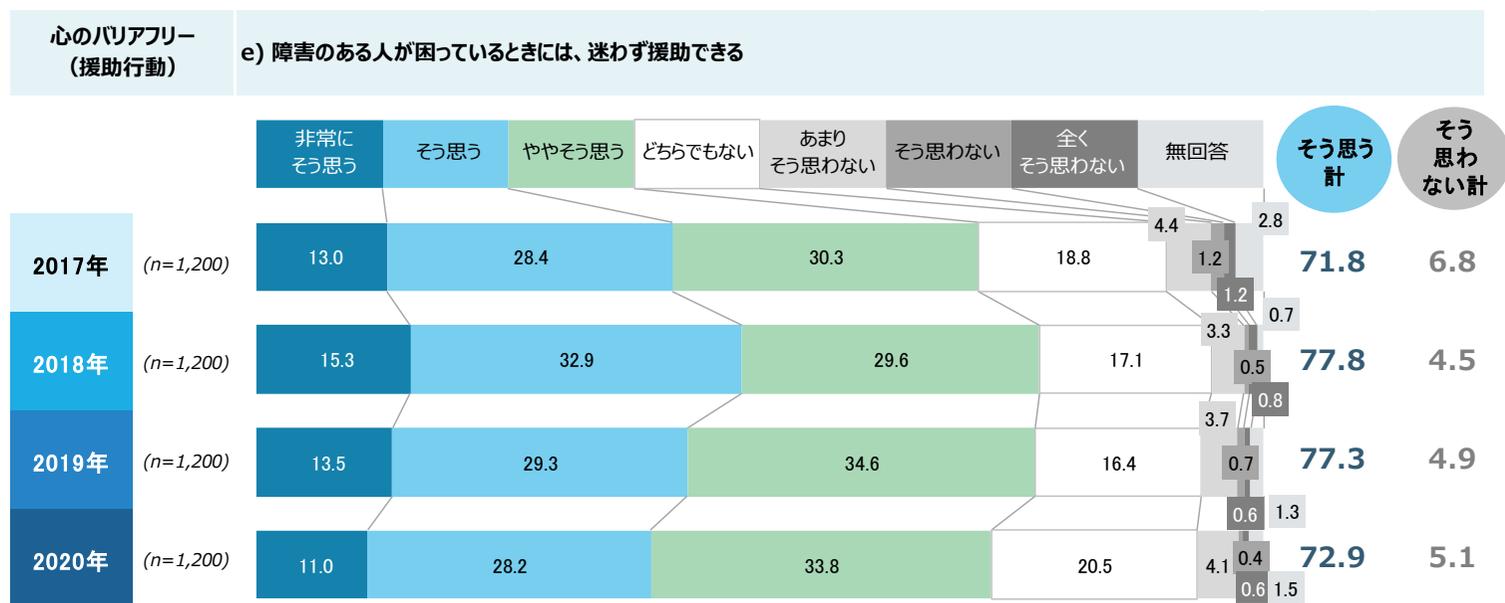
【2020年】「迷わず援助できる」（そう思う計）は72.9%。

▲「障害のある人が困っている時は迷わず援助できる」との回答が8割前後で高いのは、女性50～60代。男性20代は、他層に比べて援助行動意識が低め。

【時系列変化】「迷わず援助できる」は、2017年から2018年に上昇し、2018年から2019年は変化がなかったが、2019年から2020年にかけて減少し、2017年とほぼ同水準に戻った。

▲「障害のある人が困っている時は迷わず援助できる」は、全体でみると2017年とほぼ同水準だったものの、男性30代では2017年から3年間連続して上昇傾向にある。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年- 2019年
全体	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	71.8	77.8	77.3	72.9	-4.4
男性小計	(n=596)	(n=592)	(n=592)	(n=592)	68.6	73.8	76.2	70.8	-5.4
15～19才	(n=36)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	55.6	75.7	78.4	70.3	-8.1
20～29才	(n=76)	(n=75)	(n=75)	(n=75)	61.8	80.0	65.3	62.7	-2.7
30～39才	(n=97)	(n=95)	(n=95)	(n=95)	56.7	62.1	69.5	70.5	1.1
40～49才	(n=109)	(n=111)	(n=111)	(n=111)	71.6	73.0	78.4	72.1	-6.3
50～59才	(n=92)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	72.8	68.8	82.8	69.9	-12.9
60～69才	(n=110)	(n=106)	(n=105)	(n=107)	80.9	84.9	75.2	74.8	-0.5
70～79才	(n=76)	(n=75)	(n=76)	(n=74)	69.7	73.3	84.2	73.0	-11.2
女性小計	(n=604)	(n=608)	(n=608)	(n=608)	74.8	81.6	78.5	75.0	-3.5
15～19才	(n=35)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	65.7	86.5	75.7	67.6	-8.1
20～29才	(n=73)	(n=73)	(n=73)	(n=73)	64.4	72.6	71.2	65.8	-5.5
30～39才	(n=97)	(n=92)	(n=92)	(n=92)	69.1	80.4	72.8	75.0	2.2
40～49才	(n=105)	(n=110)	(n=110)	(n=110)	67.6	81.8	82.7	73.6	-9.1
50～59才	(n=91)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	76.9	82.8	77.4	81.7	4.3
60～69才	(n=112)	(n=115)	(n=115)	(n=115)	89.3	83.5	81.7	78.3	-3.5
70～79才	(n=91)	(n=88)	(n=88)	(n=88)	81.3	84.1	83.0	76.1	-6.8

1. 障害理解の実態 2)障害・障害者に対する意識

②心のバリアフリー（援助行動・交流意思）

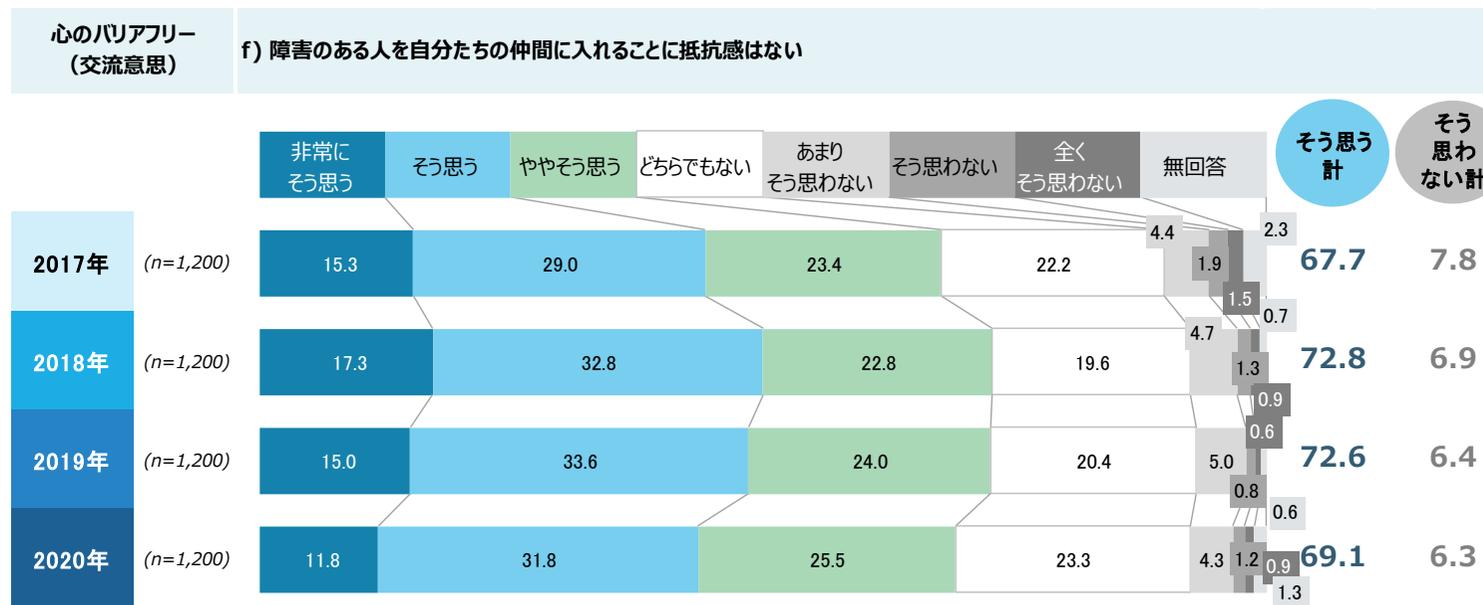
【2019年】「自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない」（そう思う計）は69.1%。

- 「障害のある人を仲間に入れることに抵抗感はない」との回答が7割半以上で高いのは男性15～19才、女性50代、女性70代。
- 男性70代は、障害者を仲間に入れることの抵抗感がない人が少ない。

【時系列変化】「自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない」は、2017年から2018年に上昇したのちに、2018年～2019年は変化がなかったが、2019年から2020年にかけて微減した。

- 2019年から2020年の変化でみると、「障害のある人を仲間に入れることに抵抗感はない」は、女性ではあまり変わらなかったものの、男性では6ポイント減少した。特に男性50代と男性70代で10ポイント以上と減少幅が大きい。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものには○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年- 2019年
全体	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	67.7	72.8	72.6	69.1	-3.5
男性小計	(n=596)	(n=592)	(n=592)	(n=592)	63.9	70.4	72.1	66.6	-5.6
15～19才	(n=36)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	50.0	83.8	75.7	75.7	0.0
20～29才	(n=76)	(n=75)	(n=75)	(n=75)	53.9	69.3	68.0	65.3	-2.7
30～39才	(n=97)	(n=95)	(n=95)	(n=95)	56.7	66.3	64.2	68.4	4.2
40～49才	(n=109)	(n=111)	(n=111)	(n=111)	65.1	73.0	74.8	66.7	-8.1
50～59才	(n=92)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	67.4	65.6	77.4	65.6	-11.8
60～69才	(n=110)	(n=106)	(n=105)	(n=107)	76.4	69.8	73.3	67.3	-6.0
70～79才	(n=76)	(n=75)	(n=76)	(n=74)	65.8	73.3	72.4	60.8	-11.6
女性小計	(n=604)	(n=608)	(n=608)	(n=608)	71.4	75.2	73.0	71.5	-1.5
15～19才	(n=35)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	68.6	81.1	78.4	73.0	-5.4
20～29才	(n=73)	(n=73)	(n=73)	(n=73)	64.4	72.6	74.0	72.6	-1.4
30～39才	(n=97)	(n=92)	(n=92)	(n=92)	78.4	75.0	65.2	69.6	4.3
40～49才	(n=105)	(n=110)	(n=110)	(n=110)	70.5	73.6	77.3	70.9	-6.4
50～59才	(n=91)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	74.7	79.6	68.8	77.4	8.6
60～69才	(n=112)	(n=115)	(n=115)	(n=115)	71.4	74.8	73.9	65.2	-8.7
70～79才	(n=91)	(n=88)	(n=88)	(n=88)	68.1	72.7	76.1	75.0	-1.1

1. 障害理解の実態 2)障害・障害者に対する意識

③心のバリアフリー（無関心）

【2020年】

「障害の問題は、自分にはかかわりがない」について、そう思う計（無関心層）は約1割（9.6%）、そう思わない計は6割弱（60.5%）。

▲ 「障害の問題は、自分にはかかわりがない」との無関心の意識は、男性20代以下に高い傾向がみられる。特に男性20代では2割を超えている。
一方、女性50代、女性70代では5%台と、無関心層が少ない。

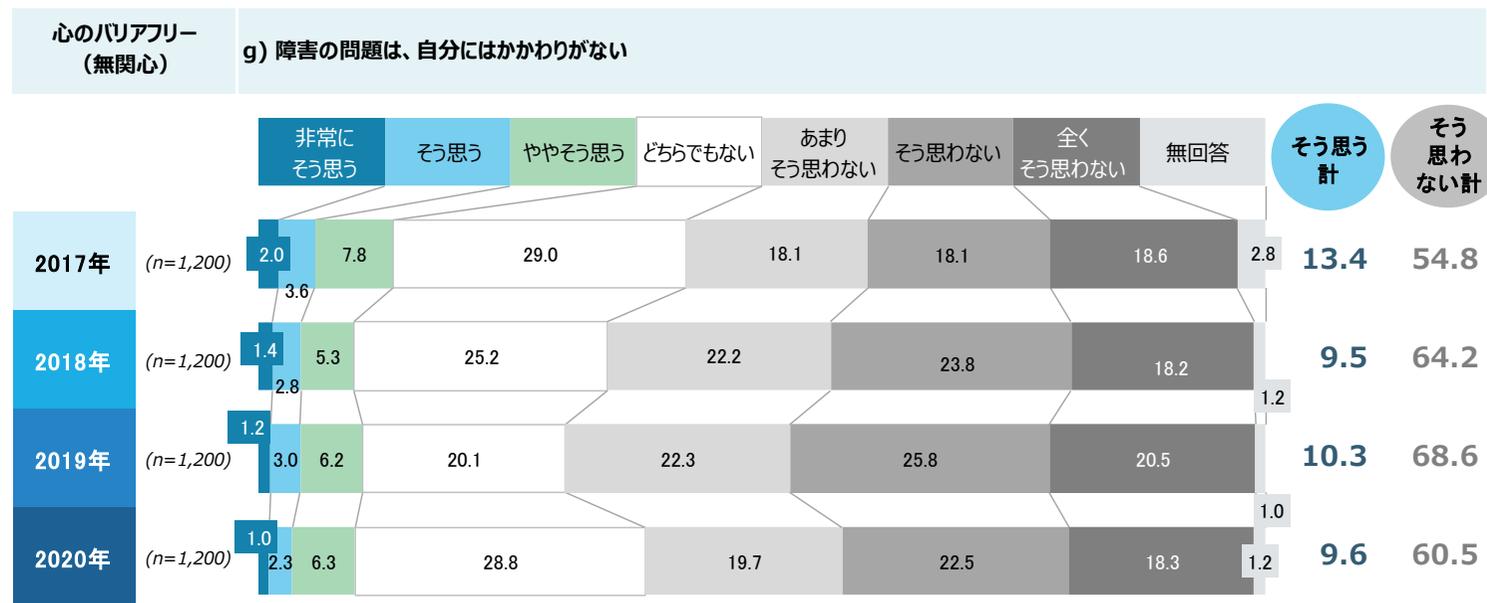
【時系列変化】

2017年に13.4%であった無関心層は、2018年に約1割に下がった後、2020年まで横ばいで推移。

そう思わない計は、2017年54.8%、2018年64.2%、2019年68.6%と年々上昇していたが、2020年は8ポイント減少。

▲ 男性50代は、2017年からの3年連続して下降傾向にある。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年-2019年
全体	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	13.4	9.5	10.3	9.6	-0.8
男性小計	(n=596)	(n=592)	(n=592)	(n=592)	15.8	10.8	11.7	11.8	0.2
15~19才	(n=36)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	30.6	10.8	13.5	18.9	5.4
20~29才	(n=76)	(n=75)	(n=75)	(n=75)	18.4	9.3	21.3	22.7	1.3
30~39才	(n=97)	(n=95)	(n=95)	(n=95)	17.5	13.7	9.5	9.5	0.0
40~49才	(n=109)	(n=111)	(n=111)	(n=111)	16.5	9.9	12.6	13.5	0.9
50~59才	(n=92)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	14.1	11.8	8.6	7.5	-1.1
60~69才	(n=110)	(n=106)	(n=105)	(n=107)	11.8	10.4	9.5	7.5	-2.0
70~79才	(n=76)	(n=75)	(n=76)	(n=74)	10.5	9.3	9.2	9.5	0.2
女性小計	(n=604)	(n=608)	(n=608)	(n=608)	11.1	8.2	9.0	7.4	-1.6
15~19才	(n=35)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	22.9	10.8	16.2	8.1	-8.1
20~29才	(n=73)	(n=73)	(n=73)	(n=73)	13.7	20.5	17.8	11.0	-6.8
30~39才	(n=97)	(n=92)	(n=92)	(n=92)	19.6	7.6	9.8	7.6	-2.2
40~49才	(n=105)	(n=110)	(n=110)	(n=110)	12.4	8.2	8.2	7.3	-0.9
50~59才	(n=91)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	5.5	4.3	6.5	5.4	-1.1
60~69才	(n=112)	(n=115)	(n=115)	(n=115)	4.5	3.5	4.3	7.8	3.5
70~79才	(n=91)	(n=88)	(n=88)	(n=88)	7.7	8.0	8.0	5.7	-2.3

1. 障害理解の実態 3) 障害の捉え方

① 障害の医学モデルへの賛同状況

【2020年】

障害をもつ個人の問題に帰結させる障害の医学モデルの賛同者（そう思う計）は3割弱（28.1%）、そう思わない計は3割半（35.2%）。

- 医学モデルの賛同者は、男性20代が4割半で高い。男性15～19才、男女70代も3割半前後で他層より高め。他方、女性30～50代では2割前後と低い。

【時系列変化】

障害の医学モデル賛同者は2017年～2019年の3年間で3割台前半のままほとんど変化しなかったが、2019年から2020年にかけて6ポイント減少し、過去4年間で最低の28.1%となった。

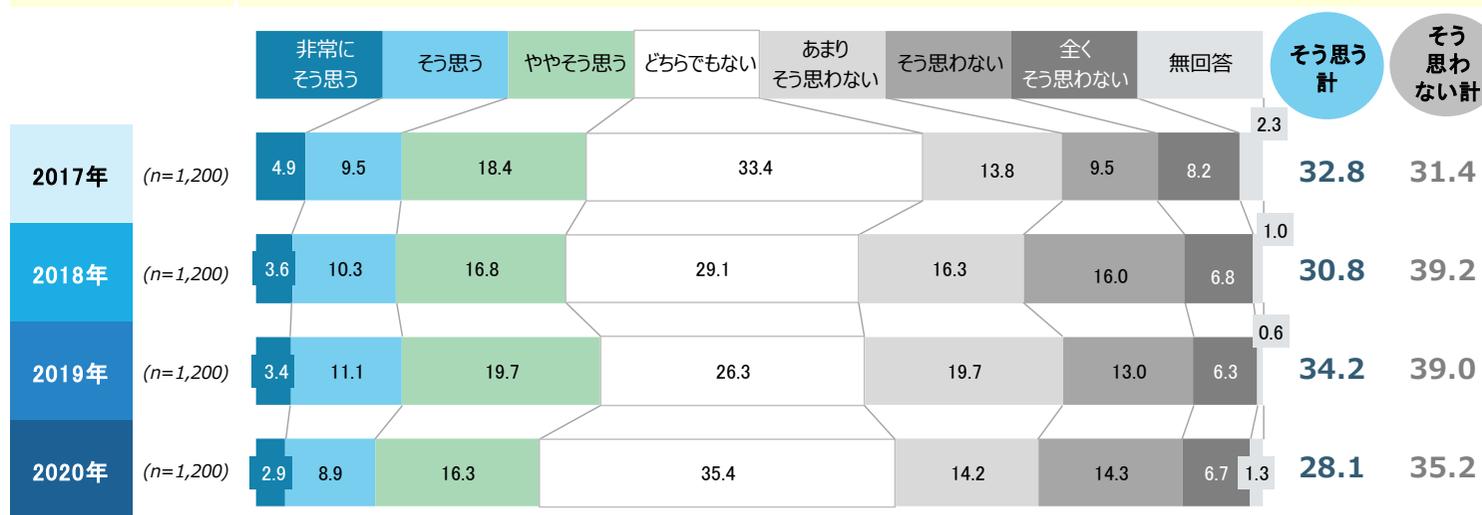
一方で、そう思わない計は、2017年（31.4%）から2018年（39.2%）で上昇し、2019年は同レベルで推移（39.0%）したが、2020年は微減し、35.2%の水準。2020年は、中庸（どちらでもない）の意見が増え、2017年と同程度となった。

- 2019年から2020年の変化でみると、そう思う計は男女70代、女性60代で10ポイント以上減少。女性40代で2017年からの3年連続して下降傾向。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）

障害の医学モデルへの賛同状況

h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年- 2019年
全体	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	(n=1,200)	32.8	30.8	34.2	28.1	-6.1
男性小計	(n=596)	(n=592)	(n=592)	(n=592)	36.6	31.6	36.5	31.8	-4.7
15～19才	(n=36)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	38.9	29.7	43.2	37.8	-5.4
20～29才	(n=76)	(n=75)	(n=75)	(n=75)	34.2	36.0	44.0	46.7	2.7
30～39才	(n=97)	(n=95)	(n=95)	(n=95)	36.1	29.5	31.6	26.3	-5.3
40～49才	(n=109)	(n=111)	(n=111)	(n=111)	33.9	24.3	34.2	26.1	-8.1
50～59才	(n=92)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	33.7	29.0	24.7	25.8	1.1
60～69才	(n=110)	(n=106)	(n=105)	(n=107)	38.2	34.9	37.1	30.8	-6.3
70～79才	(n=76)	(n=75)	(n=76)	(n=74)	43.4	40.0	48.7	37.8	-10.8
女性小計	(n=604)	(n=608)	(n=608)	(n=608)	29.1	29.9	31.9	24.5	-7.4
15～19才	(n=35)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	22.9	32.4	32.4	27.0	-5.4
20～29才	(n=73)	(n=73)	(n=73)	(n=73)	26.0	30.1	28.8	27.4	-1.4
30～39才	(n=97)	(n=92)	(n=92)	(n=92)	25.8	23.9	26.1	22.8	-3.3
40～49才	(n=105)	(n=110)	(n=110)	(n=110)	30.5	26.4	24.5	21.8	-2.7
50～59才	(n=91)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	25.3	18.3	26.9	17.2	-9.7
60～69才	(n=112)	(n=115)	(n=115)	(n=115)	29.5	33.0	34.8	24.3	-10.4
70～79才	(n=91)	(n=88)	(n=88)	(n=88)	39.6	47.7	51.1	34.1	-17.0

1. 障害理解の実態 3) 障害の捉え方

② 障害の社会モデルへの賛同状況

【2020年】 障害の社会モデルの賛同者（そう思う計）は6割（60.3%）。

▲ 男性70代、女性60代では賛同者が7割弱で他層に比べて高い。

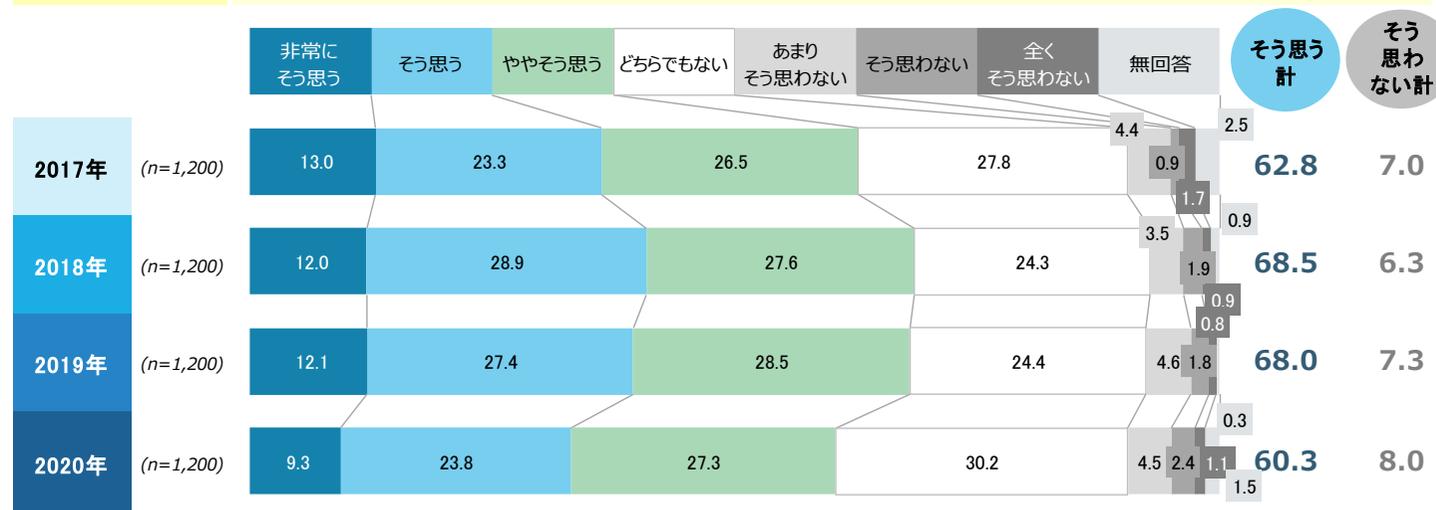
【時系列変化】 障害の社会モデルの賛同率は、2017年（62.8%）から2018年（68.5%）に上昇し、2019年（68.0%）はほぼ変わらなかったが、2020年に8ポイント減少し、過去4年間で最低の60.3%となった。

▲ 2019年から2020年の変化で見ると、男性60代、女性20～40代、女性70代は、10ポイント以上減少。特に女性20代は20ポイント以上と減少幅が大きい。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）

障害の社会モデルへの賛同状況

i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である



そう思う 計比率 (%)

	2017年 (n=1,200)	2018年 (n=1,200)	2019年 (n=1,200)	2020年 (n=1,200)	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年- 2019年
全体					62.8	68.5	68.0	60.3	-7.7
男性小計	(n=596)	(n=592)	(n=592)	(n=592)	64.3	67.9	67.4	61.7	-5.7
15～19才	(n=36)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	47.2	62.2	67.6	62.2	-5.4
20～29才	(n=76)	(n=75)	(n=75)	(n=75)	56.6	65.3	65.3	57.3	-8.0
30～39才	(n=97)	(n=95)	(n=95)	(n=95)	49.5	61.1	65.3	57.9	-7.4
40～49才	(n=109)	(n=111)	(n=111)	(n=111)	63.3	69.4	63.1	60.4	-2.7
50～59才	(n=92)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	70.7	68.8	65.6	63.4	-2.2
60～69才	(n=110)	(n=106)	(n=105)	(n=107)	73.6	73.6	76.2	63.6	-12.6
70～79才	(n=76)	(n=75)	(n=76)	(n=74)	78.9	70.7	68.4	67.6	-0.9
女性小計	(n=604)	(n=608)	(n=608)	(n=608)	61.3	69.1	68.6	59.0	-9.5
15～19才	(n=35)	(n=37)	(n=37)	(n=37)	51.4	62.2	64.9	56.8	-8.1
20～29才	(n=73)	(n=73)	(n=73)	(n=73)	53.4	61.6	75.3	53.4	-21.9
30～39才	(n=97)	(n=92)	(n=92)	(n=92)	54.6	69.6	65.2	53.3	-12.0
40～49才	(n=105)	(n=110)	(n=110)	(n=110)	61.9	69.1	69.1	54.5	-14.5
50～59才	(n=91)	(n=93)	(n=93)	(n=93)	63.7	69.9	68.8	64.5	-4.3
60～69才	(n=112)	(n=115)	(n=115)	(n=115)	70.5	77.4	68.7	69.6	0.9
70～79才	(n=91)	(n=88)	(n=88)	(n=88)	63.7	65.9	67.0	56.8	-10.2

1. 障害理解の実態 4) 障害をめぐる意識・捉え方 時系列比較

障害をめぐる意識・捉え方について、2017年から2020年に対する変化（「そう思う計」比率）は以下の通り。

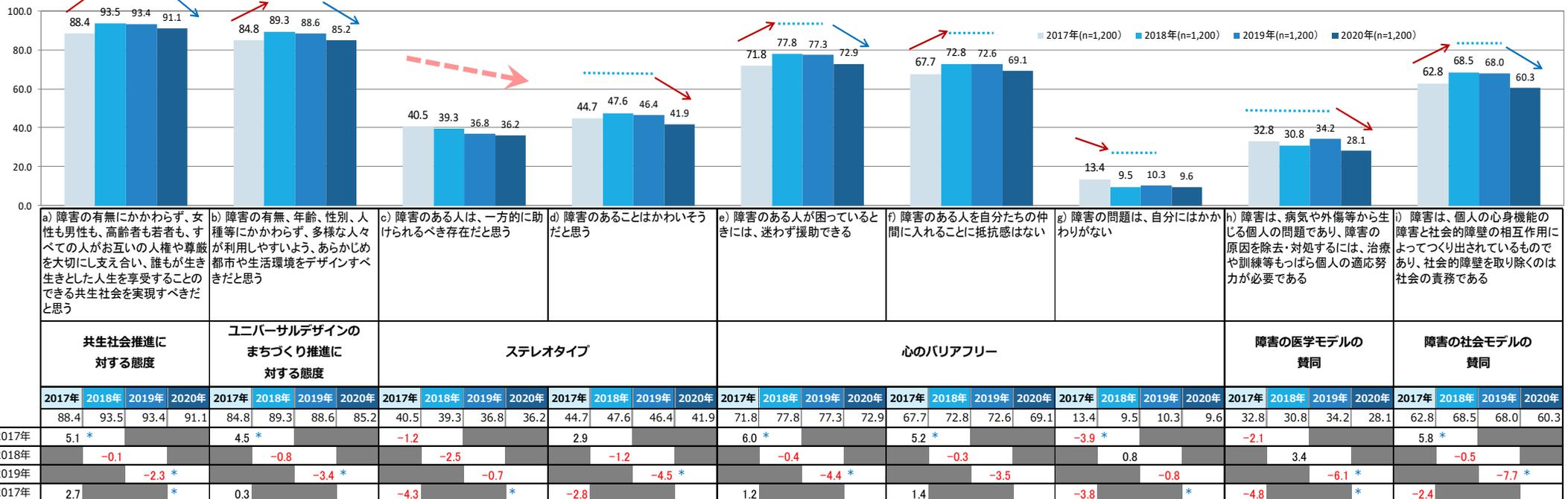
- 2020年において、共生社会推進への賛同率は9割、ユニバーサルデザインのまちづくり推進への賛同率は8割半、困っている障害者に対する援助、障害がある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感がないとする回答率はともに7割前後、障害の社会モデルへの賛同は6割。これらはいずれも、2017年～2018年の1年間で有意に増加し、2018年～2019年は同レベルで推移。しかし2020年に共生社会推進への賛同率、ユニバーサルデザインのまちづくり推進への賛同率、困っている障害者に対する援助、障害の社会モデルへの賛同は有意に減少。2017年のスコアと比較すると、共生社会推進への賛同率は2017年よりは上昇していると言えるが直近では低下傾向にあり、ユニバーサルデザインのまちづくり推進への賛同率、困っている障害者に対する援助、障害の社会モデルへの賛同は2017年と同水準にとどまった。

このように、**ユニバーサルデザイン社会を実現しようとする人々の意識、心のバリアフリー意識は2017年から2018年に一定程度の高まりを見せたあと、2019年から2020年にかけて減少した（逆U字型カーブ）。**

- 一方で、無関心率は2017年～2018年で4ポイント減少し、2018年・2019年・2020年は約1割。「一方的に助けられるべき存在」というステレオタイプ、心のバリアフリー（無関心）、障害の原因をもっぱら個人に帰結させる障害の医学モデルの賛同は減少しており、ユニバーサルデザイン社会や心のバリアフリー意識に反する意見は改善傾向がみられる。

2017年以降の4年間で一貫した変化が見られたのは、「障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う」とのステレオタイプの賛同率の低下のみにとどまった。

障害をめぐる意識・捉え方実態 そう思う計 (%)



* : 5%有意

2. 社会的障壁に接した場面での行動イメージ

混雑したショッピングモールでの買物場面を例に、社会的障壁のある状況での考え方や自身がとると思う行動について、それぞれ単数回答で尋ねた結果は以下の通り。

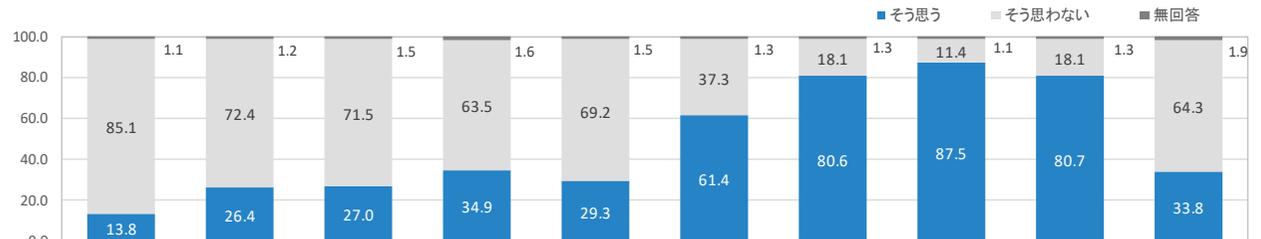
【2020年】

- ・解決方法イメージ：「狭い売り場を作らない」(カ)とのハード面での解決方法、「順番に誘導する」(キ)とのソフト面での解決方法がともに8割台が高い。
- ・改善責任の認識：混雑して買い物できない状況をつけた設置者(店)の改善責任(ケ)は、約8割に認識されている。
- ・社会的障壁除去のための社会への働きかけ：「不備に気づいた自分が店舗に改善提案していきたい」(コ)と社会に働きかける行動を起こす意思のある人は3割半弱。
- ・混雑した場所に来ないほうがよい(イ)、専用の売り場や時間帯を設ける(ウ、エ)といった分離による解決策を考える人は3割前後存在している。

- ▲ 「ク) 近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい」とする自発行動による解決策は、男性に比べて女性で高い。
- ▲ 分離による解決方法は、男性70代、男性20代で高めである。
- ▲ 社会的障壁除去の為の社会への働きかけ(コ)は、男女60代、男性70代で高く、男性20～40代、女性40代で低めとなっている。

問2 「ショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません」 このようなとき、あなたはどのように考えますか。(それぞれ○は1つずつ)

2020年



回答項目	無関心	分離による解決	ソフト面による解決 自発行動	ハード面による解決	改善責任の認識	社会的障壁除去の為の社会への働きかけ	その他
A) 自分には関係ない・関わりたくない	13.8						
イ) 車いすや乳幼児連れの人には混雑した場所に来ないほうがよい	26.4						
ウ) 一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい	27.0						
エ) 一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい	34.9						
オ) 車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行するのがよい	29.3						
ク) 近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい	61.4						
キ) 混雑時は、店側がお客様に順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい	80.6						
カ) 狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい	87.5						
ケ) すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある	80.7						
コ) 店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案していきたい	33.8						

全体 (n=1,200)	各項目単数回答	解決策イメージ																															
		「そう思う」	「そう思わない」	「無回答」	無関心	分離による解決	ソフト面による解決 自発行動	ハード面による解決	改善責任の認識	社会的障壁除去の為の社会への働きかけ	その他																						
全体		13.8	85.1	1.1	13.8	26.4	72.4	1.2	27.0	71.5	1.5	34.9	63.5	1.6	29.3	69.2	1.5	61.4	37.3	1.3	80.6	18.1	1.3	87.5	11.4	1.1	80.7	18.1	1.3	33.8	64.3	1.9	
「そう思う」の回答比率	男性小計 (n=592)	20.4	79.6		20.4	27.9	72.1		29.7	70.3		34.0	66.0		30.1	69.9		55.2	44.8		78.9	21.1		85.3	14.7		76.9	23.1		32.1	67.9		3.7
	15~19才 (n=37)	32.4	67.6		32.4	24.3	67.6		32.4	67.6		35.1	64.9		27.0	73.0		59.5	40.5		81.1	18.9		91.9	8.1		81.1	18.9		40.5	59.5		2.7
	20~29才 (n=75)	36.0	64.0		36.0	32.0	68.0		36.0	64.0		33.3	66.7		40.0	60.0		46.7	53.3		76.0	24.0		81.3	18.7		76.0	24.0		25.3	74.7		1.3
	30~39才 (n=95)	22.1	77.9		22.1	28.4	71.6		29.5	70.5		37.9	62.1		25.3	74.7		49.5	50.5		74.7	25.3		80.0	20.0		72.6	27.4		27.4	72.6		8.4
	40~49才 (n=111)	13.5	86.5		13.5	22.5	77.5		21.6	78.4		27.9	72.1		26.1	73.9		50.5	49.5		74.8		88.3	11.7		73.9	26.1		27.9	72.1		4.5	
	50~59才 (n=93)	16.1	83.9		16.1	23.7	76.3		28.0	72.0		32.3	67.7		26.9	73.1		66.7	33.3		80.6	19.4		87.1	12.9		74.2	25.8		29.0	71.0		3.2
	60~69才 (n=107)	14.0	86.0		14.0	28.0	72.0		26.2	73.8		35.5	64.5		25.2	74.8		59.8	40.2		83.2	16.8		85.0	15.0		83.2	16.8		40.2	59.8		1.9
	70~79才 (n=74)	21.6	78.4		21.6	37.8	62.2		41.9	58.1		37.8	62.2		44.6	55.4		55.4	44.6		83.8	16.2		86.5	13.5		79.7	20.3		39.2	60.8		2.7
	女性小計 (n=608)	7.4	92.6		7.4	25.0	75.0		24.3	75.7		35.9	64.1		28.6	71.4		67.4	32.6		82.2	17.8		89.6	10.4		84.4	15.6		35.5	64.5		3.0
	15~19才 (n=37)	10.8	89.2		10.8	21.6	78.4		48.6	51.4		35.1	64.9		51.4	48.6		70.3	29.7		83.8	16.2		81.1	18.9		78.4	21.6		29.7	70.3		5.4
20~29才 (n=73)	13.7	86.3		13.7	20.5	79.5		32.9	67.1		37.0	63.0		19.2	80.8		68.5	31.5		83.6	16.4		94.5	5.5		83.6	16.4		32.9	67.1		-	
30~39才 (n=92)	7.6	92.4		7.6	26.1	73.9		22.8	77.2		42.4	57.6		32.6	67.4		58.7	41.3		88.0	12.0		95.7	4.3		85.9	14.1		31.5	68.5		-	
40~49才 (n=110)	4.5	95.5		4.5	24.5	75.5		23.6	76.4		39.1	60.9		24.5	75.5		70.0	30.0		78.2	21.8		90.9	9.1		89.1	10.9		27.3	72.7		2.7	
50~59才 (n=93)	8.6	91.4		8.6	26.9	73.1		23.7	76.3		34.4	65.6		23.7	76.3		66.7	33.3		82.8	17.2		89.2	10.8		88.2	11.8		37.6	62.4		2.2	
60~69才 (n=115)	5.2	94.8		5.2	25.2	74.8		17.4	82.6		36.5	63.5		29.6	70.4		76.5	23.5		80.9	19.1		90.4	9.6		85.2	14.8		47.8	52.2		3.5	
70~79才 (n=88)	5.7	94.3		5.7	27.3	72.7		19.3	80.7		25.0	75.0		31.8	68.2		60.2	39.8		80.7	19.3		80.7	19.3		75.0	25.0		36.4	63.6		8.0	

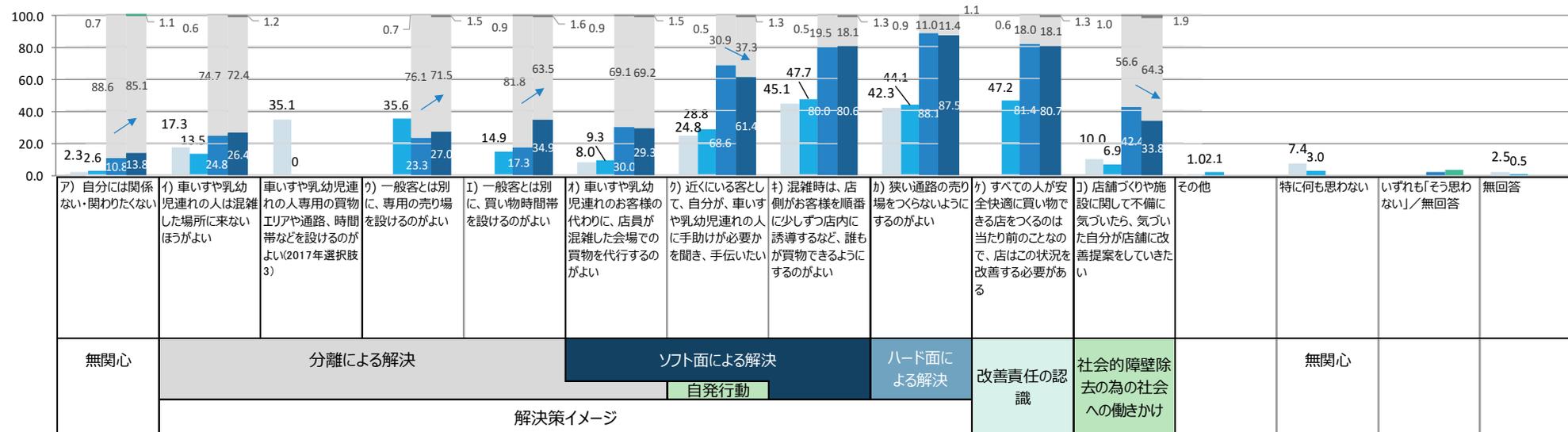
2. 社会的障壁に接した場面での行動イメージ 時系列比較

社会的障壁のある状況での考え方や自身がとると思う行動について、混雑したショッピングモールでの買物場面を例に、2017年・2018年は複数回答の設問で尋ねてきたが、複数回答では個々の意見・行動に対する意見が明確に捉えきれない（その項目に選択していないことが、非賛同なのか、単に反応しなかった＝無回答なのかの区別がつかない）ことから、2019年はそれぞれ単数回答で尋ねる形に変更し、2020年も同様に調査した。

そのため、2019年と2020年の比較を中心として時系列をみていくこととする。（参考として、2018年までの複数回答での回答率と、2019年・2020年の単数回答の回答状況を整理したものが以下となる。）

- 各単数回答で聴取した2019年と2020年を比較すると、解決策イメージとして賛同率が高かったのは、「か）狭い売り場を作らない」とのハード面での解決方法、「き）順番に誘導する」とのソフト面での解決方法である。「イ）車いすや乳幼児連れの人混雑した場所に来ないほうがよい」や、「ウ）一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい」、「エ）一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい」などの分離による解決への賛同率は、ハード・ソフト面による解決に比べると低いという点は大きな構造としては同様であるが、**2019年に比べ2020年は、「ウ）一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい」、「エ）一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい」との分離による解決への賛同率が有意に上昇。**分離意識が高まった可能性がある一方、新型コロナウイルスの感染防止策で、密を避けるために様々な施設やサービスの予約制が増えている影響も考えられる。
- 2019年と2020年を比較すると、**無関心が有意に上昇。自身の援助意欲（「ク）近くにいる客として手伝いたい」）が7ポイント減少し、自分が単独で動く範囲での行動意欲について低下がみられた。**また、「ジ）店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい」も9ポイントと大きく減少し、**社会的障壁除去のための社会的行動意欲についても低下が見られた。**

問2 「ショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません」 このようなとき、あなたはどのように考えますか。（それぞれ○は1つずつ）



* : 5%有意

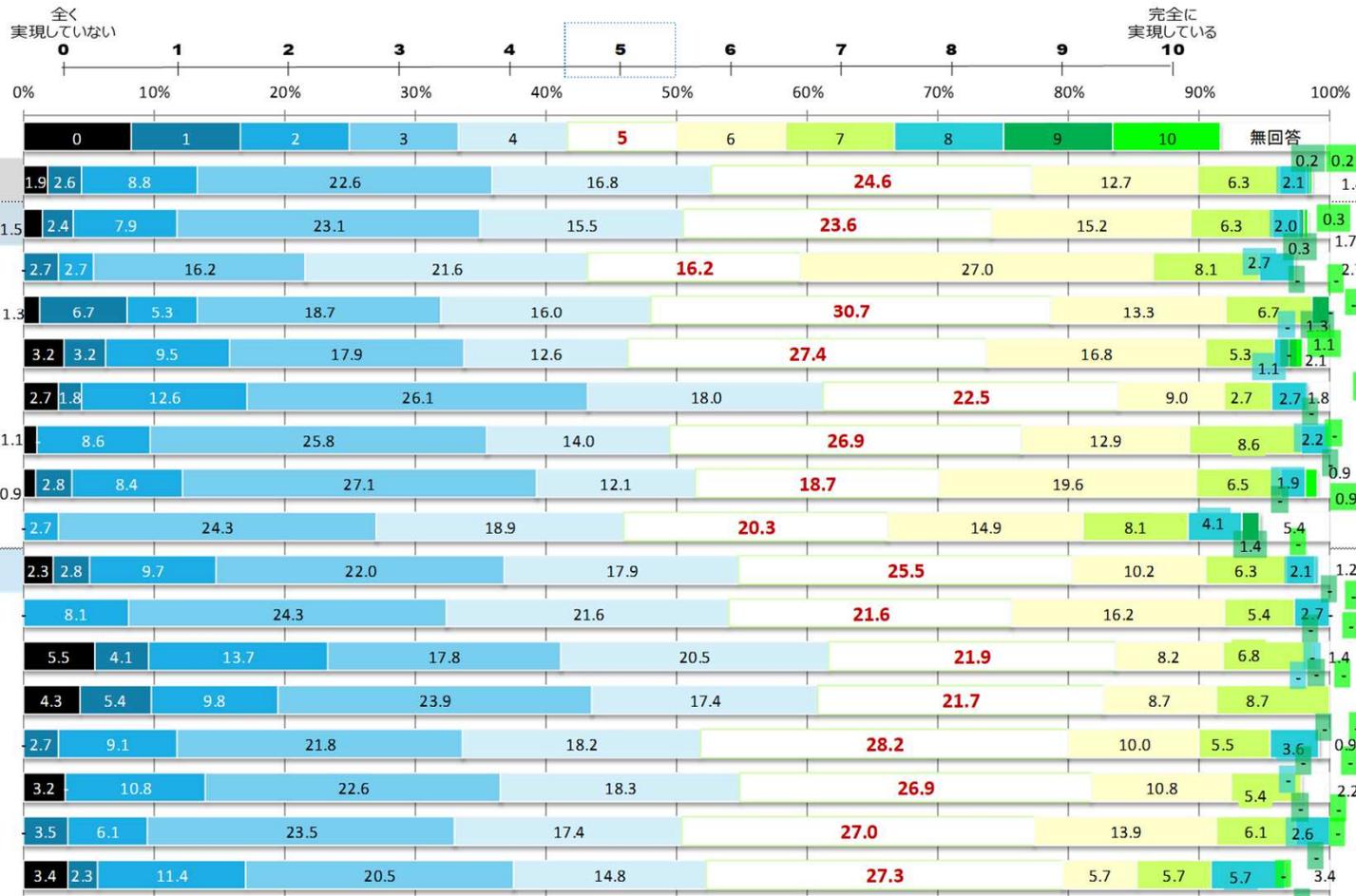
3. 共生社会の実現度合評価

【2020年】2020年の日本の共生社会実現度合(平均値) は10点満点中4.2点

- ▲ 社会全体としては、実現レベル評価がちょうど中間（5点、24.6%）の位置を中心に見て、「実現していない」に近いと考える人（0～4点）が5割強、「実現している」に近いと考える人（6～10点）が2割強となっており、大半の人が、2019年時点の日本は共生社会が実現できていないと考えている。
- ▲ 全体に比べて、男性15～19才（平均4.8点）は実現度評価が高め（甘い評価）であるのに対し、男性40代と女性30代（ともに平均3.9点）では実現度評価が低め（辛い評価）となっている。

問3 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0～10までの11段階でお答えください。（○は1つだけ）

2020年

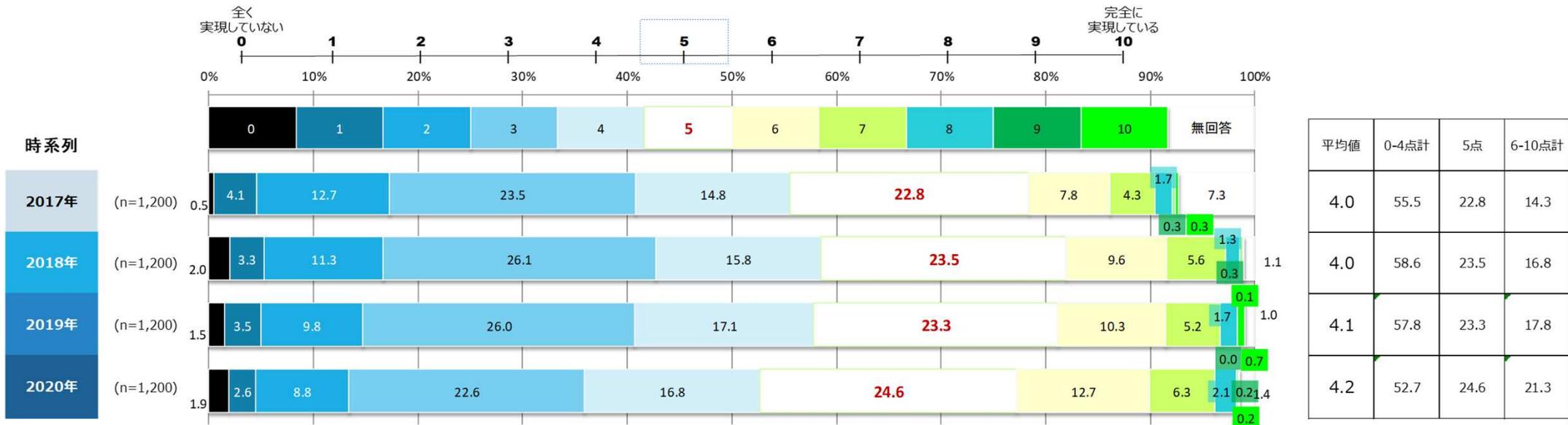


	平均値	0-4点計	5点	6-10点計
全体	4.2	52.7	24.6	21.3
男性小計	4.3	50.5	23.6	24.2
15～19才	4.8	43.2	16.2	37.8
20～29才	4.3	48.0	30.7	21.3
30～39才	4.3	46.3	27.4	24.2
40～49才	3.9	61.3	22.5	14.4
50～59才	4.4	49.5	26.9	23.7
60～69才	4.3	51.4	18.7	29.0
70～79才	4.7	45.9	20.3	28.4
女性小計	4.1	54.8	25.5	18.6
15～19才	4.4	54.1	21.6	24.3
20～29才	3.8	61.6	21.9	15.1
30～39才	3.9	60.9	21.7	17.4
40～49才	4.3	51.8	28.2	19.1
50～59才	4.1	54.8	26.9	16.1
60～69才	4.4	50.4	27.0	22.6
70～79才	4.2	52.3	27.3	17.0

3. 共生社会の実現度合評価 時系列比較

【時系列変化】 共生社会実現度合評価(10点満点)平均値は、2017年・2018年4.0点、2019年4.1点、2020年4.2点。4年間を通じて、共生社会が実現しているとの認識は低いまま推移し、ほとんど変化せず。

問3 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0～10までの11段階でお答えください。(○は1つだけ)



平均値	0-4点計	5点	6-10点計
4.0	55.5	22.8	14.3
4.0	58.6	23.5	16.8
4.1	57.8	23.3	17.8
4.2	52.7	24.6	21.3

	全体	0 全く実現していない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 完全に実現している	無回答	平均値
2017年	(n=1,200)	0.5	4.1	12.7	23.5	14.8	22.8	7.8	4.3	1.7	0.3	0.3	7.3	4.0
2018年	(n=1,200)	2.0	3.3	11.3	26.1	15.8	23.5	9.6	5.6	1.3	0.3	0.1	1.1	4.0
2019年	(n=1,200)	1.5	3.5	9.8	26.0	17.1	23.3	10.3	5.2	1.7	0.0	0.7	1.0	4.1
2020年	(n=1,200)	1.9	2.6	8.8	22.6	16.8	24.6	12.7	6.3	2.1	0.2	0.2	1.4	4.2

結果サマリー

障害理解の実態（問1）

社会のあり方に関する考えや、障害・障害者に対する意識、障害の捉え方に関する9つの意見・認識に対する適合度合いを7段階で尋ね、障害理解の実態を測定した結果は以下のとおり。

【2020年の結果】（そう思う計）

㊦ 社会のあり方に対する考え：

共生社会推進への賛同率（障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う 91.1%）、ユニバーサルデザインのまちづくり推進への賛同率（障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う 85.2%）は8割半～9割強と高水準。

㊦ 心のバリアフリー：

障害者への援助行動（障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる 72.9%）、仲間に入れることに抵抗感なし（障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない 69.1%）はともに7割前後と高い。

障害問題への無関心者は約1割（障害の問題は、自分にはかかわりがない 9.6%）。

㊦ 障害者に対するステレオタイプ：

「障害のあることはかわいそうだと思う」（41.9%）、「障害のある人は一方的に助けられるべき存在だと思う」（36.2%）といった障害者に対するステレオタイプを持つ人は3割半～4割強程度。

㊦ 障害の捉え方：

障害の社会モデルへの賛同率（障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である 60.3%）は約6割である一方、障害の医学モデルへの賛同率（障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もっぱら個人の適応努力が必要である 28.1%）は約3割。

【2017年～2020年への時系列変化】

- ㊦ 共生社会推進、ユニバーサルデザインのまちづくり推進への賛同、心のバリアフリー、障害の社会モデルへの賛同はいずれも、2017年～2018年で有意に増加したのち、2018年～2019年はいずれも同水準で横ばいとなり、2019年～2020年にかけては共生社会推進、ユニバーサルデザインのまちづくり推進への賛同、心のバリアフリーのうち援助行動、障害の社会モデルへの賛同は減少した。

ユニバーサルデザイン社会を実現しようとする人々の意識、心のバリアフリー意識は、2017年以降2018年に一定程度の高まりを見せたあと、2019年から2020年にかけて減少し2019年から2020年にかけて減少した（逆U字型カーブ）。

- ㊦ 一方で、無関心率は2017年～2018年で4ポイント減少し、2018年・2019年・2020年は約1割。「一方的に助けられるべき存在」というステレオタイプ、心のバリアフリー（無関心）、障害の原因をもっぱら個人に帰結させる障害の医学モデルの賛同は減少しており、ユニバーサルデザイン社会や心のバリアフリー意識に反する意見は改善傾向がみられる。

2017年以降の4年間で一貫した変化が見られたのは、「障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う」とのステレオタイプの賛同率の低下のみにとどまった。

社会的障壁に接した場面での行動イメージ（問2）

社会的障壁のある状況での考え方や自身がとると思う行動について、混雑したショッピングモールでの買物場面を例に、このような状況に遭遇したときにどう考えるか、どのような行動を起こすと思うかをそれぞれ「そう思う」、「そう思わない」の2択で尋ねた結果は以下のとおり。

【2020年の結果】（単数回答で「そう思う」との回答比率）

㊦ 改善責任の認識：

「すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある」との、設置者（店）側の改善責任を感じる人は約8割（80.7%）にのぼる。

㊦ ハード面・ソフト面による解決：

解決方法に関する意見として、「狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい」とのハード面での解決方法（87.5%）、「混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい」とのソフト面での解決方法（80.6%）が、ともに8割台が多い。

「近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい」と、自身がサポートすることによる解決方法は約6割（61.4%）であった。

㊦ 分離による解決：

「車いすや乳幼児連れの人には混雑した場所に来ないほうがよい」との考えは26.4%、「一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい」は27.0%、「一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい」は34.9%であった。

社会的障壁発生場面において、障害者を社会場面から分離することによる解決策に賛同する人は3割前後の一定数存在している。

㊦ 社会への働きかけ：

「店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい」との考えは、33.8%。社会的障壁を取り除くためのアクションとして自らが社会への働きかけを行う意識がある人は、3割半弱みられる。

【2019年～2020年への時系列変化】

2017年・2018年は複数回答の設問で聴取したが、複数回答では個々の意見・行動に対する意見が明確に捉えきれない（その項目に選択していないことが、非賛同なのか、単に反応しなかった＝無回答なのかの区別がつかない）ことから、2019年はそれぞれ単数回答で尋ねる形に変更した。2019年から2020年の変化でみると、「一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい」、「一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい」との分離による解決への賛同率が有意に上昇。分離意識が高まった可能性がある一方、新型コロナウイルスの感染防止策で、密を避けるために様々な施設やサービスの予約制が増えている影響も考えられる。

また、「自分には関係ない・関わりたくない」という無関心が有意に上昇。「近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい」という自身の援助意欲が7ポイント減少し、自分が単独で動く範囲での行動意欲について低下がみられたことに加え、「店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい」も9ポイントと大きく減少し、社会的障壁除去のための社会的行動意欲についても低下が見られた。

共生社会の実現度合評価（問3）

いまの日本社会はどの程度共生社会を実現していると思うかについて、0点（全く実現していない）～10点（完全に実現している）のスケールで尋ねた結果は以下のとおり。

【2020年の結果】

㊦ 2020年の日本の共生社会実現レベル(平均値) は10点満点中4.2点

中央（5点）よりも低い採点者が半数を超え（0～4点計52.7%）、大半の人が、2020年時点の日本は共生社会が実現できていないと考えている。

【2017年～2020年への時系列変化】

- ㊦ 日本の共生社会実現レベル(平均値) は、2017年・2018年はともに4.0点、2019年4.1点、2020年4.2点。
4年間を通じて、共生社会が実現しているとの認識は低いまま推移し、ほとんど変化せず。

調査票

(単純集計結果付)

テーマ:「ユニバーサルデザイン」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思うものに○をつけてください。(N=1,200)

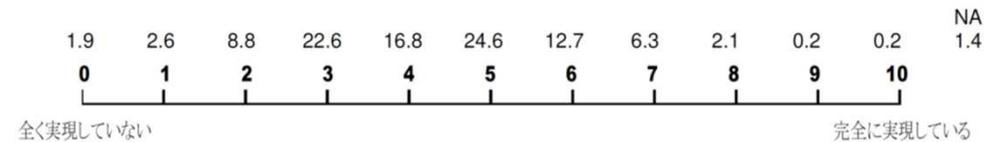
	(それぞれ○は1つずつ)							NA
	非常に そう思う	そう 思う	やや そう思う	ど ちらでも ない	あまり 思わ ない	そう 思わ ない	全 く思 わない	
a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	33.3	44.0	13.8	7.0	0.7	0.1	0.5	0.7
b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	25.3	40.8	19.1	12.1	1.5	0.1	0.4	0.8
c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	3.5	11.9	20.8	31.2	20.1	7.8	3.8	1.0
d) 障害のあることは、かわいそうだと思う	5.2	12.0	24.8	33.0	11.9	7.9	4.2	1.1
e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	11.0	28.2	33.8	20.5	4.1	0.4	0.6	1.5
f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	11.8	31.8	25.5	23.3	4.3	1.2	0.9	1.3
g) 障害の問題は、自分にはかわからない	1.0	2.3	6.3	28.8	19.7	22.5	18.3	1.2
h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である	2.9	8.9	16.3	35.4	14.2	14.3	6.7	1.3
i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	9.3	23.8	27.3	30.2	4.5	2.4	1.1	1.5

問2 「ショッピングモールに多くの人々が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません」

このようなとき、あなたはどのように考えますか。(それぞれ○は1つずつ) (N=1,200)

	→	そう 思う	そう 思わ ない	NA
ア) 自分には関係ない・関わりたくない	→	13.8	85.1	1.1
イ) 車いすや乳幼児連れの人は混雑した場所に来ないほうがよい	→	26.4	72.4	1.2
ウ) 一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい	→	27.0	71.5	1.5
エ) 一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい	→	34.9	63.5	1.6
オ) 車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行するのがよい	→	29.3	69.2	1.5
カ) 狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい	→	87.5	11.4	1.1
キ) 混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい	→	80.6	18.1	1.3
ク) 近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れのの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい	→	61.4	37.3	1.3
ケ) すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある	→	80.7	18.1	1.3
コ) 店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい	→	33.8	64.3	1.9

問3 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0~10までの11段階でお答えください。(○は1つだけ) (N=1,200)



テーマ:「ユニバーサルデザイン」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思うものに○をつけてください。(N=1,200)

(それぞれ○は1つずつ)

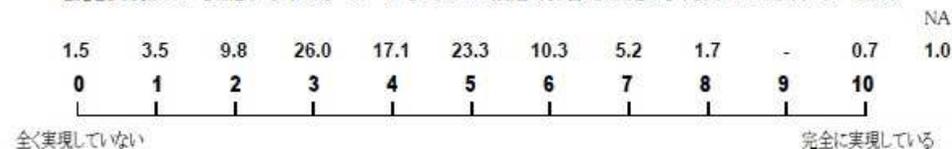
	そう思う	非常に そう思う	やや そう思う	やや 思わない	思わない	あまり 思わない	全く 思わない	NA
a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	38.2	42.9	12.3	4.8	1.4	0.1	0.2	0.2
b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	28.3	43.8	16.5	8.8	1.7	0.3	0.5	0.3
c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	4.9	13.6	18.3	25.4	21.8	11.0	4.7	0.3
d) 障害のあることは、かわいそうだと思う	5.4	15.1	25.9	26.3	12.3	9.8	4.6	0.6
e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	13.5	29.3	34.6	16.4	3.7	0.7	0.6	1.3
f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	15.0	33.6	24.0	20.4	5.0	0.8	0.6	0.6
g) 障害の問題は、自分にはかわからない	1.2	3.0	6.2	20.1	22.3	25.8	20.5	1.0
h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である	3.4	11.1	19.7	26.3	19.7	13.0	6.3	0.6
i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によってつくり出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	12.1	27.4	28.5	24.4	4.6	1.8	0.8	0.3

問2 「ショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません」

このようなとき、あなたはどのように考えますか。(それぞれ○は1つずつ) (N=1,200)

	→	そう思う	そう 思わない	NA
ア) 自分には関係ない・関わりたくない	→	10.8	88.6	0.7
イ) 車いすや乳幼児連れの人は混雑した場所に来ないほうがよい	→	24.8	74.7	0.6
ロ) 一般客とは別に、専用の売り場を設けるのがよい	→	23.3	76.1	0.7
ハ) 一般客とは別に、買い物時間帯を設けるのがよい	→	17.3	81.8	0.9
ニ) 車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行するのがよい	→	30.0	69.1	0.9
ホ) 狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい	→	88.1	11.0	0.9
ヘ) 混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい	→	80.0	19.5	0.5
ヘ) 近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい	→	68.6	30.9	0.5
ケ) すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある	→	81.4	18.0	0.6
コ) 店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい	→	42.4	56.6	1.0

問3 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0~10までの11段階でお答えください。(○は1つだけ) (N=1,200)



テーマ：「ユニバーサルデザイン」についてお伺いします

【すべての方へ】

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思うものに○をつけてください。(N=1200)

(それぞれ○は1つずつ)

	非常に そう思う	そう 思う	やや 思う	ない でも	あまり 思わ ない	思わ ない	全く 思わ ない	NA
a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	41.3	40.9	11.3	4.6	0.6	0.2	0.7	0.5
b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	32.0	41.2	16.2	8.3	1.1	0.2	0.7	0.5
c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	6.0	13.7	19.7	30.0	18.3	7.5	4.0	0.8
d) 障害のあることは、かわいそうだと思う	5.5	14.3	27.8	26.2	12.8	7.8	5.1	0.6
e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	15.3	32.9	29.6	17.1	3.3	0.5	0.8	0.7
f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	17.3	32.8	22.8	19.6	4.7	1.3	0.9	0.7
g) 障害の問題は、自分にはかわりがない	1.4	2.8	5.3	25.2	22.2	23.8	18.2	1.2
h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もっぱら個人の適応努力が必要である	3.6	10.3	16.8	29.1	16.3	16.0	6.8	1.0
i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によってつくり出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	12.0	28.9	27.6	24.3	3.5	1.9	0.9	0.9

※「ユニバーサルデザイン」に関する調査プログラムの基本プログラム「ユニバーサルデザイン」に関するアンケート調査結果より
※「ユニバーサルデザイン」に関する調査プログラムの基本プログラム「ユニバーサルデザイン」に関するアンケート調査結果より

問2 「バーゲンセールのショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません。」

このようなとき、あなたはどのように考えますか。(○はいくつでも) (N=1200)

1	2.6	自分には関係ない・関わりたくない
2	13.5	車いすや乳幼児連れの方は混雑した場所に来ないほうがよい
3	35.6	一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい
4	14.9	一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人たちの買い物時間帯を設けるのがよい
5	9.3	車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行するのがよい
6	44.1	狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい
7	47.7	混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい
8	28.8	近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい
9	47.2	すべての人が安全快適に買物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある
10	6.9	店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい
11	2.1	その他()
12	3.0	特に何も思わない

NA 0.5

問3 「ローカル線無人駅A駅。」

この駅で電車に乗るには、駅舎の改札口から構内の踏切を渡り、島式ホーム(高さ約1メートル)まで階段を数段上がらなければなりません。

電車が来る数分前に、日本語で、電車の行き先や車両数などの自動音声アナウンスがありますが、直前のアナウンスはありません。」

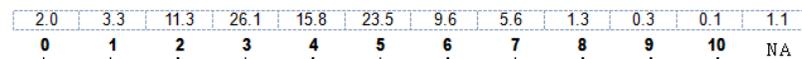


このような鉄道サービスについて、あなたはどのように考えますか。(○はいくつでも) (N=1200)

1	64.3	この駅の状態では、乗降が困難となる人ができそう
2	22.3	この駅の状態には問題があるが、すべての駅を改修することは難しいので、しかたない
3	5.9	乗降が困難な人は、この駅の利用をあきらめるしかない
4	36.7	乗降が困難な人がいたら、駅員がいないので、まわりの乗客が善意でサポートすればよい
5	10.4	駅のあり方について不備に気づいたら、気づいた自分が鉄道会社に改善提案をしていきたい
6	41.1	鉄道会社は、乗降が困難な乗客への対応を、乗客の「やさしさ」に頼って放置してはいけない
7	32.3	この駅で乗降が困難な人がでるのは、困難に感じる人の問題ではなくて、この駅の状態を放置して営業を続けていることに問題がある
8	41.9	交通サービスを誰にとっても不便や不都合なく利用できる社会にするのは、社会の責務だと思う
9	1.8	その他()
10	3.9	特に何も思わない
11	0.8	乗降が困難な人がいても、自分には関係ない・関わりたくない

NA 0.8

問4 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0~10までの11段階でお答えください。(○は1つだけ) (N=1200)



全く実現していない

完全に実現している

問5 あなたの身近に障害のある人がいますか。あてはまるものを全てお答えください。(○はいくつでも) (N=1200)

1	13.3	家族	3	8.8	友人	5	20.0	知人	7	52.4	いない
2	1.5	自分	4	3.3	同僚	6	5.6	その他()	8	4.6	答えたくない

NA 0.3

2017年

テーマ:「ユニバーサルデザイン」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。

(それぞれ○は1つずつ)

	非常に 思う	そう 思う	やや 思う	ど ちら でも	思 わ な い	あ ま り 思 う	思 わ な い	そ う 思 わ な い	全 く そ う 思 わ な い	NA
a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	40.5	34.4	13.5	7.5	0.7	0.3	1.2			2.0
b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	31.0	36.3	17.5	10.5	1.0	0.3	1.3			2.0
c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	5.9	14.6	20.0	27.7	15.7	7.6	6.2			2.4
d) 障害のある人はかわいそうだと思う	5.8	11.8	27.2	26.8	11.6	6.8	7.5			2.6
e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	13.0	28.4	30.3	18.8	4.4	1.2	1.2			2.8
f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	15.3	29.0	23.4	22.2	4.4	1.9	1.5			2.3
g) 障害の問題は、自分にはかわりがない	2.0	3.6	7.8	29.0	18.1	18.1	18.6			2.8
h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もばら個人の適応努力が必要である	4.9	9.5	18.4	33.4	13.8	9.5	8.2			2.3
i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によってつくり出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	13.0	23.3	26.5	27.8	4.4	0.9	1.7			2.5

※e:「心のバリアフリー」に向けた汎用性のある研修プログラムの基本プログラム評価ツール「研修における評価アンケート集形②」より
abcd: 内閣官庁「ユニバーサルデザイン2020行動計画」より h: 文部科学省「障がい者制度改革推進会議資料」より

問2 「バーゲンセールのショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません。」
このようなとき、あなたはどのように考えますか。(○はいくつでも)

- 2.3 1 自分には関係ない・関わりたくない
- 17.3 2 車いすや乳幼児連れの人は混雑した場所に来ないほうがよい
- 35.1 3 車いすや乳幼児連れの人の専用の買物エリアや通路、時間帯などを設けるのがよい
- 8.0 4 車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行すべき
- 42.3 5 狭い通路の売り場をつくらないようにすべき
- 45.1 6 混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにすべき
- 24.8 7 近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要か聞き、実行する
- 10.0 8 店舗の環境づくりの不備・改善点を気づいたら、気づいた自分が店舗に提案・要求していく
- 1.0 9 その他()
- 7.4 10 特に何も思わない

NA2.5

問3 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0～10までの11段階でお答えください。(○は1つだけ)

0.5 4.1 12.7 23.5 14.8 22.8 7.8 4.3 1.7 0.3 0.3 NA7.3
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

全く実現していない

完全に実現している

問4 あなたの身近に障害のある人がいますか。あてはまるものを全てお答えください。(○はいくつでも)

1 家族	2 友人	3 同僚	4 知人	5 その他()	6 いない	
14.1	6.0	2.8	19.9	5.8	57.3	NA1.5

《 引用・転載時のお願い 》

本レポートの外部への引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室 メール：information@nrc.co.jp

**掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、
調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。**